

特115

秘

159

外講事外

4

朝鮮事情

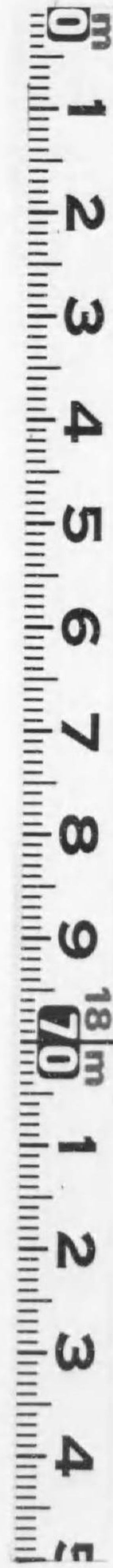
完

朝鮮總督府事務官

田中武雄

警察協會福岡支部

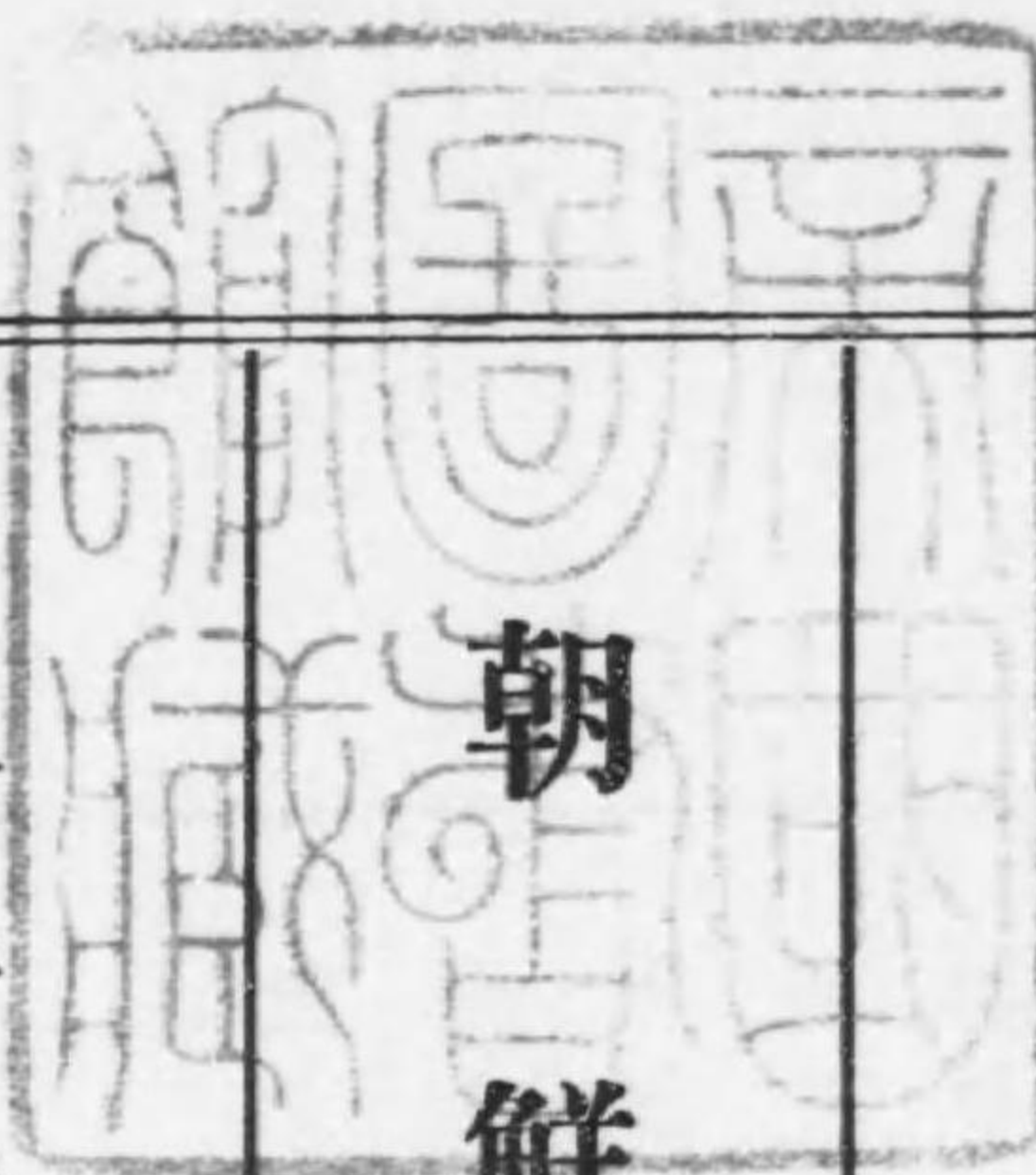
發行



始



43115
159



朝鮮總督府
事務官

田中武雄述

朝鮮事情

完

發行所

財團警察協會福岡支部

大正
15. 3. 13
內交

警務司

財団法人警察協會福岡支部

警務司

警務司

安

警務司

田中友雄



今夏福岡縣にて開催の内務省主催第三回
外事講習會に於ける専門大家の講演は警
察上特に有益なりと考へ今般當支部は各
講師の許諾を受けると共に諸賢の賛同を
得てこのパンフレットを出版することに
致しました

財団法人警察協會福岡支部



朝鮮事情

總論

田中事務官述

今回内務省の主權に依りまして當福岡縣に於て、九州、中國、四國、遠きは臺灣、朝鮮の方面から多數の警察官諸君が會同せられて、外事警察講習を開かれました機會に於て、貴重な時間を割いて頂いて、朝鮮問題の一般に就てお話しする機會を得ましたことは、朝鮮の爲に非常に愉快に存する次第であります。

朝鮮統治の問題は我が日本帝國の重大な問題であると云ふことは何人も異存のない處であります。それでありましてから内鮮兩民族が一大融合いたしまして大日本帝國の使命を果して行かなければならぬと云ふことは申すまでもないことであります。

近來朝鮮に對する問題は内地の方でも稍注目するやうになりました、朝鮮に

關する各種の團體、機關と云ふものが出來てゐるやうであり、又朝鮮の問題に對する各種の議論を耳にするやうになつて參りました。然し乍らまだ國民の大多數は極めて無關心であると思ひます、朝鮮の問題を自分達の問題として考へて居りません、朝鮮の問題は全く朝鮮に在住して居る官民がやるものとして放任せられてゐるやうな状態でないかと云ふことを常に遺憾に感じてゐるものであります。成程先程申上げました通り此頃—震災後内地に於ても種々な團體やら、施設やらが出來て居りますし、又朝鮮の統治と云ふことに對して心配されてゐる處の人もないではありませんけれども、極めて少數の政治家、官吏、其他特殊の人限定せられてゐるやうでありまして、多くの人は頗る無關心であること云ふことは事實であります。其例枚擧に遑ありませんが早い話が朝鮮の大きさや又は道の名稱等を知らないのは勿論のこと統治組織が怎う云ふ具合になつてゐるかと云ふやうなことさへも知らない人が多いのぢやあるまいかと思ひます。

尤も私共も内地に居りました時には朝鮮の問題と云ふ事に對して割合に無關心で居つたのでありましたが、事實吾々が朝鮮に來て、朝鮮統治の末班に加つて研究して見ますと、今迄の吾々の態度の無關心であつたと云ふことに對して甚だ慚愧に堪えないものがあります。若し朝鮮の問題が、朝鮮總督以下少數の役人と、朝鮮に在住して居ります處の内地人だけの研究、活動にのみ任かせて宜いものであるならば、それで結構であるけれども、事實は決して左様に簡單に參らぬのであります。

現に内鮮兩民族の感情の疎隔は何を物語るものでありませうか、又大正十二年の震災當時の出來事は何に基づくものでありませうか。尙又獨り我國のみならず、異民族統治に古い經驗を有つてゐる處の歐米各國の過去の歴史は何を吾々に教へて居りませうか、スペイン、ポルトガル、フランス、アメリカ、ドイツ

等皆斯う云ふ問題に對する貴い教訓を吾々に與へてゐると思ふのであります。

即ち新領土の統治と云ふことを、全く特殊の範圍のものだけに限定して政治をやつてゐる國は孰れも失敗して、之を國民全体の努力として努めてゐる國は孰れも成功してゐるやうに考へられるのであります。敢て例を遠く外國に探るまでもなく、又やれ殖民政策であるとか、異民族統治であるとか云ふやうな難かしい問題として考へるまでもなく、吾々お互の間に於ても、立場を異にしてゐる間に於きましては、互に相手の立場を諒解して、可成衝突を避けると云ふ事が親みを緊密にする所以であらうと思ふのであります。それでありませうからして朝鮮を治めむとするには先づ朝鮮と云ふものを研究し、朝鮮人と云ふものを理解して、然る後甫めて適當なる政治を行ふことが出来るのではあるまいかと思ふのであります。

然らば朝鮮は之を如何にして治むべきかと云ふことは明治四十三年八月二十

五日の併合御詔書及大正八年八月十九日の官制改正の際の御詔書に炳として瞭かになつてゐるのであります。即ち内鮮兩民族は一視同仁であり、共存共榮であること云ふことは朝鮮統治の根本眼目であります。吾々國民は此の聖旨を奉戴して進むで行くべきものであらうと思ふのであります。又是れより外には朝鮮を統治して行くべき途はないと云ふことを確信いたしてゐる次第であります。それでなければ、若し此の根本精神以外の方針があるといいたしましたならば、現在の如き統治と云ふものは悉く是れ偽りの政治となり、心にもないことをやつてゐると謂はなければならぬのであります。左様な心裡留保をして眞剣な統治が出来るものであるか怎うかと云ふことは、這是多く説明する必要はないかと思ふのであります。

然るに一視同仁、共存共榮を以て、表面は縦し賛成してゐるとしても、内心之れに對して疑懼の念を懷いてゐるものが絶無ではないかと思ふのであります。

總ての誤解は是れから發足して居りまするのでありまして、根本問題に對する見解の相違でありますからして、其他の點が悉く相違して來る譯になるのであります。よく朝鮮の問題に對して非常に謬つた議論を吾々は新聞雜誌其他の言論の上に見聞するのであります。此等は多く此の根本の問題に對する誤解から出てゐるやうに思はれるのであります。私共の見解を以てしますれば朝鮮の問題を眞に理解するならば、區々たる事柄の爲めに悲觀する必要は無いと思ふのであります、と云つて徒らに樂觀をして無關心で居つて宜いと云ふ譯ではありませんが、只問題の焦點が判つて居りますると日々彙蒐して來る事件の爲めに、朝鮮の問題に對する根本の觀念を謬られるやうなことはないと思ふのであります。

然し本當に朝鮮問題の眞隨が解つて居りませぬと、一つ爆彈が飛んだり、或は國境に於ける不逞鮮人の武力運動などが現はれたりいたしますると、今にも

朝鮮がヒツクリ返つて了ひそうに思つたり、又朝鮮人が參政權であるとか或は自治運動であるとか云ふやうな政治的の運動をするのを見て、人心が實に險惡になつたと云つて驚くやうなことになるのだらうと思ふのであります。そこで現在朝鮮に關する種々の議論が行はれて居りまする中に、朝鮮の時局を以て極めて險惡であるものと見て居る人が尠くないやうに見受けられるのであります。それで私は此處に朝鮮問題に對する謬まれる批判を二、三御紹介をして、然る後に現在の實情をお話して見たいと思ふのであります。

第一は人心險惡論であります。先程申上げたやうに朝鮮の時局は各種の危険な暗流が人心の奥を流れて居つて、可成り危険に瀕してゐるものであると云ふやうな叫びは、内地に於てのみならず、朝鮮に在住して居りまする内地人の口からも可成り聞く處であります。而して是等の人の所謂險惡である、危険であると云ふ根據を聞いて見ますると云ふと、朝鮮人が段々増長して不遜な態

度になつてゐる。表面平靜を保つてゐるやうであるけれども、事實はさうでなくして随分排日を唱へ獨立を論じてゐるのである。昔は内地人と道で行き合つた場合などには、朝鮮人は必ず道を譲り、又内地人が少々無理なことを言ふても朝鮮人は従順に之に服従して居つたのである。

然るに今日では道で會つても對等の顔付をして居るし、又多少朝鮮人の方に理屈があることであるならば遠慮なく内地人に向つて理屈を主張すると云ふやうな狀況になつて來てゐる。理屈を言ふだけならば未だともして、其の程度を越えて反抗するやうな傾向があるのである。這は即ち人心が如何に増長し、如何に險惡であるかと云ふことを物語るものである。斯う云ふのが所謂人心惡化論、人心險惡論の主張する根據であります。而して其等の人は朝鮮總督府當局が、人心が平靜である、時局は安定してゐると稱してゐるけれども、其れは實情ではなくして當局の宣傳であると云つてゐるのであります。

然し乍ら吾々は今靜かに考へて見ますと云ふと成程論者の言ふ如く、之を併合當時暫くの間と比較いたしますと、さう云ふ事實は確かに認められるのであります。事實朝鮮の人が内地人の温情に狎れてゐる點もあります。それ程眞劍になつて反抗しなければならぬ事柄でないに拘らず、殊更に民族觀念を以て内地人に向つて來ると云ふ傾向があることは事實であります。吾々はさう云ふ事實は之を認めるのでありますけれども然しながら公平に内地人の全体と朝鮮人の全体との態度を較べて見ますと云ふと、未だ以て朝鮮の人達が必ずしも不當に増長してゐるとのみは斷する譯には行かない點も多々あるのであります。假りに不遜になつてゐるとした處が、之を以て必しも民心が悪化してゐるとは考へないのであります。若しも吾々が朝鮮は既に一旦併合せられたのだから何時迄も併合當時の状態で續いて行くものと思つたならば、這は大なる謬りではあるまいかと思ふのであります。弱者が優者に對して多少宛理屈をこねる

のは獨り内地人と朝鮮人との關係のみに限られたことではありません、之を内地の状況に見ましても、さう云ふ現象は到る處に充滿されてゐると思ふであります。例へば長幼關係親子の關係、或は主従の關係等或は又資本主對勞働者の關係に於きましても、昔の狀態とは全で一變いたして居ります。それであるからと云ふて必ずしも國民が不穩になつたと言ふことは出来まいと思ふのであります。勿論内地に於ける是等の現象は甚だ感服の出来ない點も多々ありますけれども、大体に於て是等の思潮の動きと云ふものは、或る程度までは必至の現象であつて洵に已むを得ないことではなからうかと思ふのであります。唯だ日本の國情を壊さないやうに善導することが肝要なことではないかと思ふのであります。朝鮮に於ても是れと同様でありまして朝鮮人が理窟を捏る様な態度の中には勿論之をたしなめる幾分の點があるけれども、其の傾向全部を目して朝鮮人が不逞になつた、或は人心が險惡になつたと云つて一概に斷定する譯には行

くまいかと思ふのであります。

御承知の如く朝鮮は内地の本州と同じ廣さの領土と五千年の歴史とを有ち千七百萬の民衆を包容してゐる處の、兎にも角にも獨立の國家であつたのであります。それを併合して漸く十五年ソコゝであります。是れだけの歴史を有ち是れだけの民衆を有つて居ります朝鮮と一緒になつたのでありますからして、互に相手の立場を理解して本當に心から和衷協同をすると云ふ迄には随分長い時を要することゝ思ふのであります。又長い時を要するものと覺悟しなければならぬのであります。それを僅か二十年や三十年の今日に於て、兩民族の間に多少のことがあるからと云つて今にも朝鮮がヒツクリ返るやうな考へを有つと云ふことは大和民族として實に卑怯なことではあるまいか、洵に赤面の至りではなからうかと思ふのであります。極く卑近な例を採つて考へて見ても判るのであります。同じ日本人同志で結婚をしても、二年や三年の間は多少

の例外はあるかも知れませんが、却々甘い具合にシツクリと往かないのが普通であります。子供の一人か二人でも出来るまでは喧嘩もすれば氣拙づい思ひもしたりして、其の内に段々とお互に相手を理解し合つて、畢に所謂偕老同穴の實質を備へて来るのではないかと思ふのであります。風俗人情を均うしてゐる内地人同志の結婚にして尙且然りである。況や先程申した通りお互に固有の人情風俗を有つてゐる處の兩民族が一緒になつたのでありますからして、兩者の間に種々の事柄が發ると云ふことは洵に已むを得ないことと思ふのであります。斯様な譯でありますからして吾々内地人は先輩として彼等を指導して行く上に於て赦すべき事と赦すべからざる事とを考へて、苟も我が日本帝國の國民として赦すべからざる行ひあるに於ては斷乎として之を懲戒し誠める必要のあることは申す迄もありませんが、否らざることに就ては出来るだけ寛容な態度を以て彼等を指導して行くこと云ふことが最も喫緊なことではなからうかと思ふの

であります。更に言ひ換へれば内地人なるものは何時までも征服者としての優越觀念を満足せしめて行かうと云ふやうなことは根本の間違ひであるからして『吾れは征服民族である。汝は被征服民族である。故に汝は飽迄も吾れに絶対従順であれ』と云つたやうな偏狹な優越感と云ふものは出来るだけ棄て、『吾れは飽迄も汝の親であり、兄である』と云ふ慈愛を根底として彼等に對さなければならぬと思ひます。

然るに今日多くの内地人の朝鮮人に對する態度は『汝は劣敗者なり。汝は背恩忘徳の民なり。汝は怠惰な民なり。汝は恩に狎るゝの民なり。故に吾れは汝を慈むこと能はず』と云つたやうな態度が誠に多いやうな感じがするのであります。即ち賢兄が愚弟の愚を嘲笑することは賞めた話ではありません、如何にして之を賢にすべきか、如何にして之を指導すべきかと云ふことを考へてやらなければ兄弟としての義務を盡したと云ふことは云へないのであります。成る程

朝鮮人は怠惰な處もありませう。又能力の足りない處もありませう。又増長する處もありませう或は非常に僻むのである處もありませう。然し乍ら朝鮮が昔から國運非にして、民は常に苛斂誅求に苦しむで居つた歴史を考察いたしますると云ふと、又彼等の境遇は同情に堪えないものもあるのであります。寧ろ彼等が叙上の如き缺點を有つてゐると云ふことは、時代がさう云ふ具合に彼等を作つたものであるとも謂へるのでありますから、吾々は其の身上に一掬同情の念を寄せて徒らに其の愚を嘲笑すると云ふことを止めて、温かく之を抱擁してやることを心懸けなければなりません。

次ぎは朝鮮人驅逐論であります。これは朝鮮人を漸次滿洲の方に追ひ遣つて、其の後へ内地人をドシ／＼移住せしめなければならぬと云ふのであります。此の論は可成り多くの人から聴くのであります。私共もシベリヤ、滿洲方面の寶庫に向つて、内地人と言はず、朝鮮人と言はずドシ／＼發展して行く

と云ふことは最も必要なことであらうと思ふのであります。又朝鮮人だけの問題として考へて見ても、朝鮮人が是等の地方に行つて土地を耕やして安定して行くことが出来るならば洵に結構なことであらうと思ひます。然し乍ら是は滿洲の事情と民族問題とに關聯して頗るデリケートな事情が其の間に横はつて居りますから、只圖面や調査書の上から見て朝鮮や滿洲が空いて居るからドシ／＼移民を送つたならば双方都合だ等と、アツサリ片付けて了ふ譯には行かないのであります。同時に又深い考へも無くして之を高調することは非常な障害になるのであります。要するに朝鮮の開発に就ても内地人を充實せしめて内地人のみを本位とする處の開発策を圖ると云ふことは非常に考慮を要することでありませう。

然るに動もすれば内地人の朝鮮開發論を聴くと云ふと恚う云ふ議論が大變多いのでありまして、爲めに朝鮮人は此の點に對して非常に神経を鋭敏にしてゐ

ると云ふことは事實であります。兎に角先刻申した通り内地人であれ、朝鮮人であれ、シベリヤ、滿洲方面に發展して行くこと云ふことは取も直さず我が國力の發展になるのでありますからして、洵に望ましいことであるけれども、是等の地方に遣る爲めには、行くことが出来るやうな状況にしてやらなければならぬ。行く先を詰らして置いて、出て行け行けではなか／＼出て行くものではありません即ち滿洲には朝鮮人に對して土地商租の問題等がありまして、即ち土地に關する権利の獲得が甚だ不確實であるが爲めに、又僻遠の地にゐるものに對する日本政府の保護が行き渡らない爲めに常に支那人地主や支那官憲の苛斂誅求に苦しめられて、又一面馬賊なり、不逞鮮人なりの脅迫を受けて、全く安定した生活を送ることが出来ないやうな状況でありますからして、所謂滿洲に於ける墾民は内外兩方面から壓迫を受けてゐると云ふやうな状況であります。諸君が一度びシベリヤ、滿洲の地方に行かれて、朝鮮の農民が實に窶すば

らしい處の生活をしてゐる状況を見られたならば確かに同情せられる處があるだらうと思ふのであります。それでありまして私に騙逐と云ふことは甚だ名前は悪いけれども、朝鮮人が不景氣な朝鮮内地に於て苦しむのであるよりも、無限の寶庫である處の滿洲方面に出稼すると云ふことは決して悪いことではないが、それに對する吾々の持掛けやう如何に依つては却つて弊害があるのであります故に此の點に對する内地人の言論は大に慎む必要があらうと思ふのであります。

次ぎに朝鮮人の排日的言動及獨立運動を唱へることに就て一言いたしたいと思ふのであります。朝鮮人が自ら憚らずして、日本を排斥したり、又は絶對獨立を主張するが如きことは實に思はざるの甚だしきものであります。這は朝鮮民族自体の爲めに吾々は甚だ遺憾に思ふてゐる次第であります。それでありまして私は前にも述べました通り、日本の國民として赦すべからざ

る處の言動に對しては斷乎として抑壓しなければならぬと云ふことを申しましたのであります。然し世間一般に謂はれてゐる處の排日論の中には朝鮮人が日本の政治を謳歌しないと云ふ理由を以て直に之を排日であり、又或は危険思想であると云つて騒ぐ。斯の如きことを以て騒いで居つたならば恐らく大多數の者は危険な民と謂はなければならぬだらうと思ふのであります。若し吾々が朝鮮人に向つてお前は獨立をしたいかと云ふことを聞いて見たならば、恐らく大部分の人は出来ることならば獨立をして見たいと答へるであります。又情に於ては此希望も無理のないことであると思ふのであります。然し多くの人は縱令獨立を希望してゐるにした處が現在の狀況では到底獨立は出来ないこと云ふことは、是又一般に認識してゐる處であります。唯だ彼等は出来ないことではあるけれども、若し事情が許すならばさう云ふ境遇を再び實現して見たいと云ふことを希望してゐるに過ぎないのである。であるからして斯の如き事

實を以て直に朝鮮の時局が險惡なものと速斷する必要はありません、表面口には何と云つても朝鮮人の理性は獨立は不可能であること云ふことを明かに認識して居ります、故に少しばかり獨立の問題を云ふると云ふ理由を捉へて吃驚する必要はなからうかと思ひます。無論吾々は獨立と云ふやうなことは一人も口にするこのないやうに努めて行かなければならないのであるけれども、先刻來種々お話した通りの事情でありまして、今朝鮮は方に其の過度の時期でありますからして、多少獨立問題等に對して種々の議論をするものもあると云ふことは洵に已むを得ないことではなからうかと思ふのであります。唯だ是れが爲めに吾々が獨立論と云ふものを許してゐる、獨立の主張と云ふことを當然認めてゐると誤解されては甚だ困るのである。

それから次ぎには諺文新聞に對する態度であります。現在朝鮮で許して居ります處の諺文新聞は四つあります。即ち毎日新報、東亞日報、朝鮮日報

時代日報、此の四つが朝鮮に於ける日刊新聞であります。其の他にも一部諺文を混へた新聞はありますけれども、全部諺文を以て發行してゐるものは是れだけであります。此の四つの新聞の中で、毎日新報のみは官廳の機關新聞で、其の經營も内地人がやつてゐるのでありますから先づ純粹なる朝鮮の代表新聞としては其れ以外の三新聞であります。而して是等の新聞は大正八年制度改正直後に（時代日報のみは大正十二年に許可せられたものである）許されたものであります。それ以來今日まで終始一貫排日論や、獨立論や又は總督政治に對する攻撃論やらを以て充たされてゐる狀況でありまして、内容は極めて不穩なものでありますから屢々差押處分に遭ふてゐる狀況であります。其の内容を系統的に分類して見ると大要次ぎのやうなものであります。

諺文新聞紙差押事項

一、朝鮮民族獨立思想を鼓吹宣傳し又は朝鮮民族獨立運動を煽動する虞ある記

事

例一、朝鮮獨立の必要又は可能を論じたる記事

イ、米國其他の列國は民族自決主義を認容せざるへからず而して朝鮮は此の際ワシントン會議に對し朝鮮に民族自決主義の原則を適用せむ事を要求す 朝鮮は日本の壓迫を受けたり米國は朝鮮に同情す故に朝鮮の獨立を願ひ又は米國と同じく共和國たらむ事を願ふものなり 云々
（大正十年八月二十三日東亞日報）

ロ、在上海排日鮮人は太平洋會議に對し朝鮮獨立案を提議せり之に關して李承晩曰く 日本は朝鮮問題を國內問題なりと主張すれども實は是れ國際問題なり朝鮮が諸國と締結したる諸條約は何國も之を破棄したるものなし然るに日本は之を無視して諸國の保證したる朝鮮の獨立を侵害せり 朝鮮の自由獨立と門戶開放は東亞のために爲されざるへか

らす 云々（大正十年九月四日朝鮮日報）

ハ、吾人今日の敗は團結なかりし爲めなり 團結心は強大なる軍隊よりも強し 吾人は自由を求めざるへからず戦はずして自由は求められず 吾人は筆と舌とを以て彼の劍と弾とに抗して戦はざるへからず 云々

（大正十三年四月二十三日東亞日報）

例二、獨立運動を賞讃又は煽動したる記事

イ、人の死にして最も貴きは我民族の爲めに事業を爲して鎗砲に死するを最上とす之に死なば毫も苦痛を感せず群衆に贈與する處ありて死を快取するを得 民族の爲めに刑に觸れて血を流すを次とす 電光の來る刹那亦群衆に遺贈する處あり下を豊の上の死とす 云々（大正九年

五月三十日朝鮮日報）

ロ、觀よ錦繡の江山三千里の半島は荒廢に歸し二千萬の民衆は自由なし

されは志士は自ら犠牲となりて國家社會を救はむとし鐵窓に呻吟するにあらずや然るに何ぞや妓生と戯むるゝとは時乎時乎再ひ來らす時を失はば悔ゆとも及はず祖國の慘狀を觀察せざるか 云々（大正九年六月一日朝鮮日報）

ハ、噫—最後の戦線に立ちたる諸君—力ある拳固はありや 熱き民族愛はありや吾人は吾人の失ひたる總てのものを求めむか爲めに吾人の生存の爲めに吾人民族の復興の爲めに戦へ諸君の持ち居れる力と熱とを絞り出して前に出せ最後の戦線に立てた諸君は

吾人は危機一髪にあり吾人の背後には凡ての被征服者等の無言の中の應援あるなり加之吾人は人間力を超越せる正義の偉大なる力附き居れり吾人も生きむとするには斯かる力ありとは言ふなり斷然として起て
—（大正十三年六月十三日東亞日報）

ニ、金社變は嚴然として起ちて

六年前の獨立運動は日本に對する宣戰布告なり敵に捕へられたる余としては決して降服を爲さず正義を考ふれば放免せよ然らざれば死刑より外なしと云ひ日本魂を嘲笑し朝鮮民族と朝鮮魂を叫び敵の求刑は當然なりと少しも死を恐るゝ色なし 云々（大正十三年十月十八日朝鮮日報）

二、排日思想を宣傳し又は排日運動を煽動する虞ある記事

例一、日本の朝鮮統治政策を批難する記事

イ、君等は恆に同化主義内地延長主義何主義と云ふも之は朝鮮人を侮辱するも甚しきものにして又君等の誤も甚しきものなり

君等如何に破廉恥なりとは言へ四千年の歴史を持つて文明人をは他國の文化に同化せよとは無禮なり 云々（大正十一年四月一日東亞日報）

ロ、目下の政治制度社會制度經濟制度は一も朝鮮人本位ならず朝鮮人は個人個人に罵言侮辱體面を汚さる されど朝鮮人の反感反抗は心中のみ持ち居りて外に表はして死力を以て義憤勇猛の反抗を貫徹する事なし（大正十一年八月四日東亞日報）

例二、排日的直接行動を煽動したる記事

イ、獨立萬歳の聲は何時にても發し得られざるにあらざるも之れか十年目に朝鮮人は日本人の統御に甘伏せすてふ眞情として發したるものにして五臟六腑四肢ある以上何人と雖他人の奴隸となるを欲せざるを以てなり（大正九年七月三日朝鮮日報）

ロ、吾人の苦痛は其の極に達し積りに積れる怨恨は九天に到着したり禽獸すらも死する時には最後の決死あり地に這ふ微物も踏めは踵を噛み付かされは死なす況んや人に於ておや 噫！時は來れり吾人か三思す

る時は來れり (大正十三年五月六日時代日報)

例三、日本を呪咀したる記事

イ、兎に角日本は危険なる島國なり何時か一度は顛覆して了ふたらうと考へらる九月一日より八日迄に餘震一千一百三十一回の多きに達したり (大正十二年十月二日朝鮮日報)

ロ、日本は震災により一朝にして多大のものを烏有に歸せしめたり而して默然として佇立する日本民族の悲痛なる心事に對しては深く同情を寄する處なりされど今や國際政局の風雲逐日激甚なる今日に在りて如何に不可抗力の天災なりとは言へ深刻なる打撃を受けたるは竊かに日本國運の消長に對して關係なしと云ひ得ず吾人は盛衰の常無きを驚嘆するのみなり (大正十二年九月四日東亞日報)

三、社會主義を宣傳し又は社會革命を煽動する虞ある記事

例一、資本家の搾取を呪咀し階級争闘を煽動したる記事

イ、今や軍國主義と資本主義との野合か生みたる斷末魔的最後に到着せり之に革命的勞働者と社會主義者とか意氣と氣勢とを揚げて彼の最後に止めを刺さむとするなり (大正十三年四月一日開闢)

ロ、他國にありては中産階級没落して資本階級發生することも其は國內的現象に過ぎす即ち朝鮮の如く外來の資本階級に産業權が移動するものにあらす他國に於ては産業革命ありて後に産業の増殖あるも朝鮮には二重に搾取せらる 即ち民族的搾取の地位に陥れる朝鮮の大衆は朝鮮資本階級に搾取せられ且つ又外來の資本階級に搾取せらる 之か爲めに朝鮮民族は滅亡しつゝあり之を覺らは奮起して此の現象を排徐し朝鮮人の産業權を回復せざるへからず (大正十三年九月五日時代日報)

例二、社會革命を諷刺したる記事

イ、社會關係國家秩序を維持せむか爲めに一層其の生活苦深く其の困窮切なるときは如何てか其の法律其の秩序を愛敬せむや茲に法律破壊の運動生し秩序を亂す直接行動出づるなり此の場合に單に其の舊法律舊秩序論を以てしては其の直接行動の倫理的道德的觀念を打破し難く殊に批難は爲し能はざるなり。こは其の舊社會舊法律に對しては實に敵對的行爲にして反逆行爲となるも其の將來の新社會隨ひて人類生活の進展發達の爲めには一種崇高の犠牲土臺となるものなり（大正十二年三月十七日東亞日報）

ロ、曰く産業—曰く交通—曰く教育曰く警察—皆昔日の批政時代より面目一新せりと誇張するも之か果して吾人に對し誠意ある施設なりや否な否な其れは吾人を窮迫に陥し入れたる日本人の爲めにせる施設なり人心の離散せる處には政治は偶像的にして屈從は強壓的征服に過ぎず

吾人は力弱く殊に武力に抗拒する何物も無し。されど吾人の涙は吾人の冤恨を拭ふの日あるへく吾人の血は吾人の後裔に傳はるなり此の二千萬の民衆の呪咀には如何なる應報あらむやも知れず自由を失ひ生命の保證なき二千萬民衆には残り居れるものは冤恨と呪咀のみなり。赤裸々に言はむ冷靜に冷靜を加へて言はむ「是の日曷んぞ表はさる」の聲二千萬民衆の口々より出づる事を知るや否や（大正十三年八月八日時代日報）

四、其他治安を紊す虞ある記事

例一、時事に關し無稽の風説を流布し人心を動搖せしむる虞ある記事

イ、震災に乘し鮮人虐殺せらる云々（震災當時各新聞）

ロ、メルラン總督を狙ふ安南革命黨員入鮮せり云々（大正十三年五月二十日東亞日報）

例二、國家に對する義務を否認する如き記事

イ、納税は人民か國家より享くる利益の代價なり故に國家より利益を享けず保護を受けざる時は納税を拒絶するを得るなり

然らば朝鮮人は總督政治によりて利益保護を受け居れりや今日の朝鮮人の悲境は皆日本より利益保護を享けさりしのみならず却りて經濟上に破滅せしめられたり故に問はんとす朝鮮人に果して納税の義務に對する保護は何々ありや（大正十三年十月三十一日時代日報）

五、風俗を壞亂する虞ある記事

例無し

斯様な譯でありますからして、謔文新聞は益々朝鮮人の民心を險惡ならしむるものであるから斯う云ふものは止めてしまつた方が良いと云ふ議論が可成り強いのであります、然し又之に對する反對論もあります。兎に角朝鮮現下の

情勢に於て朝鮮人に言論の自由を與ふべきか、或は與ふべからざるかと云ふ問題は随分大きい問題であるだけ之に就ては可成り議論の餘地もあること、思ふのであります、今日の時代に於て朝鮮人に全然議論の自由を與へない、即ち全く言論を壓迫すると云ふことは、是れは到底爲し得ないことであらうと思ふのであります。或は不可能でないかも知れませぬが、朝鮮統治を圓滑にやる上から言つて到底認めることの出来ない暴論であらうと思ふのであります。既に自由を與へるものとするならば或る程度の言論は之を認容して行かなければならぬのではあるまいかと思ひます。既に言論の自由を與へて置いて、之を極端に壓迫することは洵に矛盾したことでないかと思ふのであります。言論を認める以上は或る程度の彼等の不平なり不満なりを聞いてやる處に甫めて意義があるだらうと思ふのであります。尤も私が先に申述べました朝鮮の絶對獨立なり、其他國体を毀けるやうな言論は勿論之を認める譯には行かぬのであります

るが、其他の議論は成可く寛容な態度を以て聽いてやるのが至當でないかと思ふのであります。それでありますから現在には著く不穩なものに對しては差押處分をいたして居りますけれども、多少不穩と認めても根本問題に觸れない事柄であるならば、餘程の点まで大目に見てゐるのであります。先にも御話した通り朝鮮人は多年壓迫の逆政に苦しむで來た民族であり又併合後と雖も内地人の方でも随分專恣横暴なる行爲があつたことも事實でありますからして、多年斯の如き壓迫の反動と、世界的思潮の影響等に因つて多少不平又は反抗がましいことを言ふと云ふことも亦已むを得ない處ではないかと思ふのであります。それで吾々は必ずしも諺文新聞を悦んでゐる譯ではありませんけれども、去りて又言論の自由を絶対に壓迫して了はなければならぬと云ふやうな悲觀論でもないのであります。或る程度の不平や不満は言はして見て、悪い處は差押をや、又聽く可き點は誠意を以て聽いてやると云ふことが良いと考へてゐるので

あります。

斯様な次第でありまして種々の批評は必ずしも間違ではありませんけれども各々一面の眞理を含むてゐることは事實であります。孰れも其の一斑を見て全豹を律する弊に陥つてゐると思ふのであります。恰も群盲象を撫し、或者は材木と稱し、或者は石像と稱し、或者は椽と稱し、而して或者は龍の如しと稱したのと同じやうな類へのもと言へるだらうと思ひます。それでありますからして吾々は宜しく朝鮮問題の全体を一貫いたしまして、其の全体の動きが如何に動いてゐるかと思ふことを正視することが必要であらうと思ふ。猶ほ之れを例へて申しますれば大洋の中に大きな氷塊が動いてゐるやうなものであつて吾々は此の氷塊を如何なる方向に導いて行くかと思ふことが問題の焦點であります。其の氷塊の内の一部の破れてゐる内に於て、小さい氷の塊が西に動き或は東に動きしてゐる處の状態は必ずしも之れを氣にする必要はないのであります。

す。是等の小さい氷塊が何れに動いた處が全体としては、之れを包容する處の大氷塊の行手に附いて行くことは疑ひのない事實であります。故に吾人は小さい氷塊を眺めずして、大きな氷塊に眼を着けて行くやうにしなければならぬ。然らば朝鮮の現在に於ける實狀如何と云ふことを是れからお話したいと思ひます。

以上叙べました處の大体の狀況、即ち之れを朝鮮問題の概論といたしますれば次ぎに述べんとする處のものは各論と云ふことになりますので、先づ第一に鮮内の狀況をお話して、次ぎに鮮外の狀況を申上げて結論に及ばんとするものであります。

鮮内の狀況

一 民族運動

朝鮮内の狀況は之れを二つの方面からお話したいと思ひます。先づ第一は民族運動でありまして、第二は思想運動であります。朝鮮の民族運動は併合以來幾多の變遷を経て今日の情勢を馴致したのであります。此の經過を此處で詳細にお話し申上げると云ふことは時間もありませんので、今日までの傾向に就て極く大要をお話したいと思ふのであります。で之れを今解りよいやうに分類をしてお話いたしますと、先づ第一には獨立に焦慮した時代で日韓併合の事が發表せらるゝと世論が囂然として人心安定いたしません。而して各處に暴民が蜂起いたしまして、併合に對する不平を愾へたのであります。又有識階級に於ては時局を憤慨して外國に逃走したのもありますし、又自殺し

た者などもありまして、獨立を失ひたる半面、言ひ換へれば併合と云ふ事實に對して煩悶焦慮を極めたものであります。這是洵に無理からぬ話でありまして當然起つて來る現象かと思ふのであります。抑も朝鮮が今日の狀態に立到りましたのは、世界の氣勢が然らしめたのであつて、一朝一夕に左様な大事が成し遂げられたのではないのでありますけれども、併合直後に於ては多少ジタバタしたことは已むを得ない處であらうと思ふのであります。然るに段々と時間が經つにつれて時勢に目覺めて來るし、従つて其處に或る程度の落付きを有つて來るやうになりまして、唯だ煩悶焦慮することに由つては到底駄目である、反抗するならばそれだけの準備を整へて掛らなければ駄目である、と云ふことの自覺が段々出て參つたのであります。是れが第二期の諦めの時代であります。それで此の時代では最も時勢に目覺めたものは怎うしても實力を養成して健全なる國民を造ると云ふことに氣が付いて來まして、過激な運動を止めて専ら實

力の充實と云ふことに努力するやうになりました。然し時勢に目覺めない頑迷者流は矢張り第一期の如き焦慮の時代を繰返してゐるのであります。飽迄も不平を愬へ、又は過激兇暴なる計畫を以て日本に反抗すると云ふことを是れ事としてゐるのであります。即ち爆彈や拳銃の偉力に由つて、或は官公署を破壊したり、或は又大官を暗殺して世の中に向つて日本統治の不平を愬へたり、又或は武力運動に依つて朝鮮に侵入して、親日者なり又は官憲なりを襲撃して不平不満を天下に愬へると云ふやうなことを計畫してゐる譯であります。

然し乍ら是等は極めて一部少數の人でありまして、全体は既に是等の行爲が朝鮮民族の進展に何等寄與するものでないと云ふことを十分知り抜いてゐる譯でありまして、矢張り徐ろに實力を養成して他日に資せんとすることが大多數の者の態度であります。それで現在は確かに諦めの時代となつてゐるのであります。昔と著しく異つて來た點は所謂親日派に屬する連中も、排日派に屬する

連中も當分同じ軌道を進んでゐると云ふことが出来るであらうと思ひます。昔は親日派と云へば何でも乎でも役所のやることを謳歌して是れ以上何ものも要求する處はないと云ふ態度を執つて居つたやうに思ふのであります。現在に於ては親日派と雖も朝鮮人は現状の儘で結構である、總督府の施設に對して是れ以上何等の要求もないと云ふやうな考へを有つてゐる者は一人もないのであります。出来るだけ朝鮮人の政治的及經濟的の希望を現在以上に進展せしめたいと云ふことは彼等が痛切に考へてゐる處であります。それであればこそ或は國民協會の如きも専ら參政權獲得の運動に努めて居ると云ふ様な次第であります又同光會の如きも内政獨立運動(此意味はよく判らないけれども)に盡力して居る次第であります。是れと同時に所謂排日派と稱する者でも、先程お話ししたやうな爆彈、拳銃の偉力に依つて、即ち直接行動に依つて獨立の目的を達成しやうとするやうな手段方法は極めて愚劣なことである。斯様な事柄が朝鮮

民族の健全なる發達を阻害しこそすれ決して有效なるものでないと云ふことは百も二百も承知してゐるのであります。それで吾々は飽迄も實力の養成に努めて、今少しく立派な國民を造り上げた上に於て祖國のことを談すべきものであると云ふ主張が非常に多くなつて參つたのであります。それでありますからして所謂親日派も、亦排日派も俱に實力を養成すると云ふことに就ては全く一致して居る譯であります。是れは一見獨立運動が衰微したやうに見えるのであります。然し決してさうではないので、寧ろ朝鮮の運動としては常軌に這入つて來たものと見ることが出来ると思ひます。それで現在に於ける獨立運動の種類を列擧して見ると云ふと大体次ぎのやうになると思ひます。

獨立運動の種類

第一 馬車馬的獨立運動

時代の趨勢も知らず、四圍の狀勢をも顧みずに獨り自ら盲動するもの。

一、直接行動派 例へば義烈團等の如く爆彈の偉力に依つて獨立運動を企圖せんとするもの。

二、武力行動派 現在平安北道の對岸に於て活動してゐる處の所謂武力不逞運動等である。

第二 漸進的獨立運動

實力養成に依つて他日獨立を圖らんとする運動である。

一、第三者の援助を得て獨立の目的を達成せんとするもの。

二、日本の諒解に依つて獨立の目的を達成せんとするもの。

三、獨立の前提としての參政權獲得又は自治運動を爲すもの。

大体以上の如く分類することが出来るが尙ほ第三の運動に附隨した運動として鮮人本位の産業施設を要求したり、又は鮮人本位の教育施設を要求したり、其他經濟的に又は智識的に總て朝鮮人を本位とする處の施設を要求する運動も

可成りあるのであります。次ぎに思想運動の狀況をお話いたそうと思ひます。

二 思想運動狀況

由來朝鮮人は結社などを造つて陰謀をめぐらすと云ふやうなことは餘り嫌ひでない民族であります。今日までの長い間の歴史を見ましても、さう云ふ現象が明かに表はれて居ります、近來の思想上の運動に就ても、どれ程までの深さと眞劍味とを有つてゐるか云ふことは姑く別問題としまして、随分大くの團體結社を造つて、此頃流行りのヤレ共產主義だの、ヤレ社會主義だのと云ふやうな看板を押立て、種々な運動をやつてゐることは事實であります。大体から言ひますると云ふと朝鮮の主義運動は开歴に根深いものでないと思ひますが、茲に見逃がし難い傾向が一つあるやうに思ふのであります。それは朝鮮人が政治的にも經濟的にも苦しんで來たと云ふこと、現在の有様では結局吾々は破滅であるとの切實な感じを有つて來たと云ふことであります。多年逆政に

苦しめられて来た結果は動もすれば時の権力と謂はふか、政府と謂はふかお上の力に對して兎角反抗せんとするやうな氣分がありまするし、又現在の境遇に不満である處からして唯だ無暗に解放とか自由とか云ふことに懐れる傾向が非常に濃厚であります。それでありまするから朝鮮に於て少し教育でも受けてゐるやうなもの、間には、言換へれば青年智識階級の間には一般に解放であるとか改造であるとか云ふやうな、總てのものを根本から建直して行かうと云ふことに對する餘程強い懐れを有つてゐることは事實であります。それでありまするから共產主義なり社會主義なり、但しは又無政府主義なりと云ふやうなものは怎う云ふものであつて、是れが吾々人類に如何なる反響を齎らすものであるかと云ふやうなことを精細に研究せず、唯だ何んでも根本から破壊して建直しをやると云ふことに對して、非常に共鳴性を有つてゐるのであります。是れは恰も薪を抱いて火中に投ずるやうなものでありまして、勞働者にしても、其他

の階級の者にしても、民度が進んで居ない處へ徒らに解放、改造の欲求が熾烈でありまするからして、過激な思想は直に朝鮮全道に喰入る危険性が大變多いやうに思ふのであります。それでありまするからして、朝鮮に於ける思想運動は之を其深さの方面から見ますると到底内地の比ではありません。極めて單調でありまするが然し今お話申したやうに、特種の事情を持つて居ますから過激思想の取締は寸時も忽かせにして置く譯には行かないのであります。殊に況や朝鮮に於ては此の思想運動は一面民族運動と結び付きまして、此の兩方面の運動が互に手を携へて進んで行つてゐる譯であります。然らば朝鮮に於ける思想運動として怎う云ふものがあるかと申しますると、先づ第一は勞働運動であります。第二は小作争議であります。第三は衡平運動であります。是れから此の三つの運動に就てお話をして、終りに朝鮮に於ける主義運動とロシア共產黨及日本社會主義者との關係に就てお話をしたいと思ひます。

第一 労働運動

労働運動と申しましても御承知の通り朝鮮では科學工業が發達して居りませんからして、此の方面は割合に運動も單純であり、又其の運動の經過も小規模のものが多いのであります。私共朝鮮に來ました大正八年以來今日迄の處では本年の一月京城に於て起りました電車従業員のストライキでありますが、是れが約五百人の乗務員が結束いたしましたして、會社に對抗したので、其の全員の罷業日數は一日罷業人員は五百十人でありまして、是れが最も大きい罷業でありました。ですから朝鮮では労働運動と云つて見てもそんな大した騒ぎは餘りないのであります。労働運動の種類原因を檢討いたして見ますと、是れは内地と無論同じことでありまして、孰れも労働條件の維持改善と云ふことを目的としてゐるやうであります。稀には民族の感情から内地人資本家又は雇主に對してストライキをすると云ふやうなことも絶無ではありませんが極めて僅少で

あります。即ち之れを分類してお話しするならば、第一爭議の原因としては労働條件の維持改良と云ふことである。爭議の種類としてはストライキでありまして、是れ以上の程度を越えないのであります。爭議を解決する爲めに又資本家、工場主に對抗する爲めに、暴力其他の直接行動に出づると云ふことは先づ絶無と云つて宜からうかと思ひます。朝鮮に於ても其の職業別に依つて各種の労働組合式のものを作つて居りますが、即ち印刷工組合、鐵工組合、淨機職工組合、土工組合、大工組合等の如く事實上の職業組合に似た様なものを作つて居りますから、爭議等の場合に於ては組合の力に依つて比較的統一的の行動を執つて居りますが、孰れも今お話ししたやうに高々ストライキ位が關の山でありまして、それ以上の危険な程度に逸出すると云ふことは朝鮮の現在に於ては殆どないのであります。

第二に労働運動に従事してゐるものゝ種類を分類すると云ふと (1) 實際共産

主義何程か研究して是を全く良いものと確信して其理想境を實現しやうとして努力してゐる者も絶無ではありませんが極めて少いのであります。御承知の如く朝鮮現下の文化の程度はマダ／＼低いのであります。教育を受けて居りまする所謂智識階級に屬する人は極めて少い。此の少い有識階級の中の極く一部分の人が先程お話ししたやうな民族的及經濟的の惱みから常に社會主義、共產主義の社會を憧憬して遂に之れに深入りするやうになつたのであります。其他の運動者は皆唯だ境遇上勢ひ是等の思想に共鳴するやうになつたと云ふ丈のことであつて、従つて平素の彼等の行動も多くは學者的態度ではないので、全く年百年中主義運動を煽動教唆して是れに由つて糊口を凌いで行く所謂社會主義又は共產主義ブローカーのやうなものであります。

(2) 獨立運動に挫折した結果已むを得ず主義運動に従事してゐるものがあります。既に總論並に民族運動の處で説明したやうに、多くの朝鮮人は併合以來朝

鮮の獨立を希望して居つたのであります。(恐らく今も尙さうであります) 多くの人が朝鮮の國權恢復運動の爲めに奔走して居つたのであります。所謂上海假政府の活動も段々怪しいものになつて來るし、當てにして居つた外國はそれ程自分達を助けて呉れないし、一般の民心は漸次安定して來るし、従つて今迄獨立運動に従事して居つた連中も段々時勢に目覺むると共に、斯様な運動に狂奔すると云ふことが段々莫迦らしいと云ふことを自覺して參りました。結局朝鮮の光復運動と云ふやうなことは到底噪つても出來るものではない。さう云ふことよりは先づ實力を養成して健全な國民を造り上げると云ふことは先決の問題と云ふことに目覺めて來たのは何んど云つても動かすべからざる事實であります。然し乍ら從來所謂獨立運動などをやつて居つたものは、假し其の運動を止めたにした處が何處かに不平不満を漏らさなければならぬのでありますから、結局其の不平不満を現代の社會制度に持つて行つて、而して共產

主義だの社會主義だのと云ふやうな如何にも弱者に都合の好いやうな運動に走り込むと云ふやうな順序になるのであつて、寧ろ是れは當然の現象ではあるまいかと思ふのであります。

(3)は唯だ時流を追ふてホンの表面の見得を張つてゐるものであります、朝鮮では一寸勉強でもすれば主義運動にでも加擔するか、それでなければ獨立論の一つもやらなければ何んだか仲間に対して肩身が狭いやうな考へを有つてゐるものが多數あるのであります、唯だ譯もなくさう云ふやうな『時の流れ』又は『空氣』に浸つてゐるだけのことであつて、之を以て我れ時流に掉せりとなして自ら任じてゐるまでのことであります。是等のものは勿論社會主義の何んであるかをさへ知らずに、唯だ自由を叫び解放を唱へれば何等か幸福でも得られるかの如く感じて引摺られてやつてゐると云ふに過ぎないのであります。

以上述べました三つの種類の中で(1)に屬するものは極めて少數でありまして

主として(2)、(3)に屬する人物が多いやうに思ふのであります。現に私共が言論出版の取締等に就て、所謂是等の主義者と稱する者と膝を突合はして話をして見ましても、主義運動自体を多少なりとも學問的に研究してゐるものは極めて稀れであつて、随分彼等の仲間で有名な人物でも、イザ會つて話をして見ると云ふと案外何んにも知つて居らんに驚されるのであります。唯だ其の言ふ處は當局が壓迫するとか、總督政治は吾々の自由を認めないとか云ふやうな不平を並べるのは彼等の病であつて、主義者としては物足らざること夥だしいのであります。斯様に朝鮮に於ける社會運動に従事するものは甚だ權威がないやうでありますけれども、戦線に起つ同志としては必ずしも莫迦には出來ないと思ふ。此處が警察取締の上に非常に注意をしなければならぬ點であります。警察取締の方面から見た社會主義運動は、必ずしも社會主義の理論や學問を研究してゐる人物が怖ろしいと云ふ譯ではないのであります、學問や理屈は知らなくて

も或る事柄を確信して、それを一圖に信じ切つてゐる者の力と云ふものは偉大なるものであります。即ち社會主義や、共產主義の運動と云ふものが自分達の進むべき途であると云ふことを確信してゐるものは即ち一種の信仰の境涯に這入つてゐるものであります。是れ程強いものはなからうかと思ふのであります。従つて其の運動に對する戰鬥力は極めて猛烈に發揮の出来る素質を有つて居りますからして、縦しむば朝鮮に於ける主義運動が貧弱であり、内容が空疎であるにした處が、之れをやる者の心理状態は先刻來お話しするやうに世の中の建直しと云ふことを總て前提とし、之れに對する信仰の境涯に這入つて居りますから此の運動には烈しい戰鬥力が含まれてゐるものと見なければならぬのであります。情報に依りますると國際共產黨に於ては朝鮮の同志を可成り利用しやうとしてゐると云ふことは洵に所以あることと思ふのであります。

殊に朝鮮はロシアと陸接國境を有つて居ります關係上、又鮮内自体の運動の

性質が今お話したやうな關係でありますから、是等運動の警察上の取締に就ては可成り注意しなければならぬと考へてゐる次第であります。

次に朝鮮に於ける既設思想團體の運動の模様を一言お話ししたいと思います。但し、朝鮮全鮮に亘つて勞働問題並に小作問題に關係してゐる處の團體は數百（概數を書くこと）あります。其の春是等數百の團體は表面二つの團體に統一された形になつて居ります。其の一は朝鮮勞農總同盟と云ふのであります。他の一は朝鮮青年總同盟と云ふのであります。此の兩總同盟は各々鮮内に於ける自派に屬する數百の團體を集めて、そして一個の總同盟を造つて居るのであります。お互に數百の細胞團體を有つてゐるのであります。此の二つの總同盟に依つて大体統一された形になつて居りますが、此の内容に立到つて見ると又緊乎りした統一が取れてゐないのであります。内部には紛擾の絶え間がないのであります。それで此の兩總同盟が出来てからでも之れに加入しな

い団体や、又之れから分離した団体も少くはないのでありまして、今日では此の兩總同盟の外にも多數の団体が出来ると言つたのであります。団体を標準として説明すると斯様な譯でありますが、勢力を標準としてお話をすると朝鮮の思想団体は北星會の勢力とソール青年會の勢力との二大勢力の對立であると云ふことが出来ます。京城を始めとして全鮮に散在して居ります處の各種の団体は、勞農總同盟又は青年總同盟の孰れかに加入をして居ると居ないと拘らず、必ず北星會なり又はソール青年會の勢力外のものはないのである。孰れかの一方に屬してゐる譯である。北星會系統は勞農總同盟の方に主として其の勢力を扶植して居るし、ソール青年會の系統は朝鮮青年總同盟の方に主として勢力を扶植してゐる狀況であります。それで朝鮮現下の各種団体は勞農總同盟と青年總同盟の二つ及此の孰れにも加入して居ない団体も幾らかある譯であります。是等の全体を通じて北星會の系統か又はソール青年會の系統か孰れ

かに屬しないものはないと云ふ狀況であります。

茲で一寸北星會とソール青年會の起原をお話して置きたいと思ひますが、北星會と云ふのは東京の留學生の中で最も濃厚なる社會主義者及無政府主義者の団体でありまして大正十年東京で組織せられた黒濤會と云ふものが其の前身であります。處が此の會は大正十一年の十月に主義の衝突からして内訌を起して無政府主義者の方は黒友會を組織して、遂に二派に分裂したのであります。此の北星會が後に京城に根據を据えて金鐘範、金燦、徐延禧、宋奉瑀、金章鉉、鄭雲海等の連中が幹部となつて活動して居るのであります。而して昨年朝鮮勞農總同盟が組織せらるゝに及んで其の勢力を自派の手に收めたのであります。それから「ソール」青年會は大正九年頃に張德秀、吳祥根等が組織したのであります。現在では李英とか張探極、韓慎教、鄭拍等の者等が采配を揮つてゐるのでありまして、是れも昨年青年總同盟が出来ると及んで之れを自派勢力の下に

て全鮮の労働運動者の統一を圖らうとすれば、今度はソール青年會系統の方では社會運動者大會を開いて之れに對抗しやうとするし、北星會系統の方では北風會とか火曜會と云ふやうな團體を組織すれば、ソール青年會系統の方では赤寇團とか社會主義同盟とか云ふものを造つて之れに對抗しやうとするし、總ての運動が皆此の兩系統が對立し競争してゐるやうな形になつて居ります。

それでありますから亦諺文新聞の方でも東亞日報はソール青年會系統を援助すれば、朝鮮日報は北星會系統を援助すると云ふ具合に、言論機關も二派に分れて對抗してゐるのであります。斯様に内訌を續けてゐると云ふことが、ロシア共産黨との提携を妨害してゐると云ふことは事實でありまして、目下の處ロシアとの間に餘り密接なる關係は有つてゐないと考へて居ります。情報に依りますると云ふと第三インターナショナルでは京城を初め鮮内の有力な土地に夫々聯絡機關を設置してゐると云ふことを屢々耳にして居りますけれども、未だ

それらしい様子は今の處見えないのであります。然し強ひて申しますれば北星會系統の方が露西亞浦潮在住の李東輝の一派と稍や聯絡を取つてゐるのであります、之に依つて更に國際共産黨との關係を促進したいと努力してゐる状況であります。

次ぎは労働運動に對する小作運動に就てお話したいと思ひます。

第二小作運動 前にお話しましたやうに朝鮮に於ける労働運動は科學工業の進歩して居ない爲めに割合に幼稚であります。小作運動に關しては可成り問題の種になるやうな素因が多く含まれてゐるやうに考へるのであります。小作人と地主との關係は朝鮮に於ては長い間平靜な状態を維持して來ましたけれども朝鮮も段々民度が進むに従つて、如何に無智な朝鮮の農民と雖も次第に覺醒して參りまして、小作條件に對して兎角の紛議が多くなつて參つたのであります。先づ第一には小作爭議の原因をお話しますと云ふと、先づ小作權移動の問題

收めたのであります。

以上お話しするやうに朝鮮では此の北星會とソール青年會の二大勢力の對立であつて、其の孰れの系統にも屬しないと云ふ會は極めて少ないのであります。従つて團體の數は澤山あつても牛耳を執つてゐる連中は北星會並にソール青年會の者等に定まつてゐるのであります。

然らば之等の團體は如何なることを行つて居るかと云ふに何分勢力が未だ微弱である爲めに是等の團體自体として目立つた運動としては別にやつて居りません。即ち言ひ換れば労働運動に對する煽動行爲と云ふものは別にやつては居らぬのであります。各地に於て發生する労働爭議等に對して委員を派遣して運動の調査等をやることはありますが、當局の取締が嚴重である爲めに、是等の運動の渦中に投じて煽動すると云ふ行爲は殆どないと云ふても宜いのであります。而して之等の運動に對する當局の取締方針としましては労働者自体の自

覺に依つて起る爭議は或る程度までは寛大にして居りますけれども、純労働者でもない全くの第三者が是等の運動に介入すると云ふことに對しては最も峻嚴なる取締をやつてゐるのであります。それで彼等は各地に起る労働爭議を種に目覺ましい活動をするに云ふことも出来ませんからして、現在では自ら勞農露國との關係を付けることに腐心いたして居ります。従來ロシア共產黨の手から多少宛の宣傳費を貰つたのであります。何分鮮内の此種の團體が互に相排擠して内訌の絶間がない爲めに、ロシア共產黨の方でも當分の間朝鮮の團體は見込のないものと諦めて、物質的の援助等は一切中絶した形になつてゐるのであります。それで現在では何んどかして其の關係を復活したい、それが爲めには自派の手で朝鮮の總有労働團體を纏めて、朝鮮に於ける代表的團體であると云ふことの實質を備へると云ふことが必要であるが爲めに、此の内部の結束に非常に努力をいたして居ります。従つて北星會系統に於て民衆運動大會を開い

て全鮮の労働運動者の統一を圖らうとすれば、今度はソール青年會系統の方では社會運動者大會を開いて之れに對抗しやうとするし、北星會系統の方では北風會とか火曜會と云ふやうな團體を組織すれば、ソール青年會系統の方では赤寇團とか社會主義同盟とか云ふものを造つて之れに對抗しやうとするし、總ての運動が皆此の兩系統が對立し競争してゐるやうな形になつて居ります。

それでありますから亦諺文新聞の方でも東亞日報はソール青年會系統を援助すれば、朝鮮日報は北星會系統を援助すると云ふ具合に、言論機關も二派に分れて對抗してゐるのであります。斯様に内訌を續けてゐると云ふことが、ロシア共産黨との提携を妨害してゐると云ふことは事實でありまして、目下の處ロシアとの間に餘り密接なる關係は有つてゐないと考へて居ります。情報に依りますると云ふと第三インターナショナルでは京城を初め鮮内の有力な土地に夫々聯絡機關を設置してゐると云ふことを屢々耳にして居りますけれども、未だ

それらしい様子は今の處見えないのであります。然し強ひて申しますれば北星會系統の方が露西亞浦潮在住の李東輝の一派と稍や聯絡を取つてゐるのであります、之に依つて更に國際共産黨との關係を促進したいと努力してゐる状況であります。

次ぎは労働運動に對する小作運動に就てお話いたしたいと思ひます。

第二小作運動 前にお話しましたやうに朝鮮に於ける労働運動は科學工業の進歩して居ない爲めに割合に幼稚であります。小作運動に關しては可成り問題の種になるやうな素因が多く含まれてゐるやうに考へるのであります。小作人と地主との關係は朝鮮に於ては長い間平靜な状態を維持して來ましたけれども朝鮮も段々民度が進むに従つて、如何に無智な朝鮮の農民と雖も次第に覺醒して參りました、小作條件に對して兎角の紛議が多くなつて參つたのであります。先づ第一には小作爭議の原因をお話しますと云ふと、先づ小作權移動の問題

と小作料の問題との二點に着眼するのでなからうかと思ひます。

然しながら運動の方法といたしましては暴行其他の直接行動の如きことはないのであります。唯だ稀に地主側の小作料納入の督促、其他土地の調査を爲すものに對して拳銃を發射し、其他暴行を加へると云ふやうな事例は多少あつたのであります。朝鮮の小作人は多年地主に忍従して來たのであります。最近多少反抗的態度を執るにしましても、そんなに狂暴なことをやる程民心は荒んでは居ないのであります。其の運動方法の如きも普通の労働運動に比して尙ほ訓練されて居ないやうな遣方があります。それであります。朝鮮に於ける現在の小作運動に對しては農政上の問題として、又社會的問題として確かに攻究すべき幾多の點があると思ふのであります。警察上の立場から見た所の此の運動は今の處極めて平穩であると云つて宜からうと思ふのであります。是れに對して動もすれば第三者が介入して種々な煽動

をする惧れがありますので、此の點は先程も申した通り嚴重な取締をしてゐるのであります。

是れで労働運動と小作運動の概況をお話いたしましたから、又前講で民族運動の状況も一通りお話いたしましたから、茲で朝鮮に於ける民族運動なり或は思想運動に關する重要團體を列記して置きます。

重要團體一覽表

○労働又は小作問題を目的とするもの

朝鮮	無産者同盟	京城	釜山	大邱
労働農	労働同盟	労働者同盟	労働共濟會	労働共濟會
朝鮮農	朝鮮労働共濟會	朝鮮小作人相助會	朝鮮農大	朝鮮農大
朝鮮農	朝鮮労働共濟會	朝鮮小作人相助會	朝鮮農大	朝鮮農大
朝鮮農	朝鮮労働共濟會	朝鮮小作人相助會	朝鮮農大	朝鮮農大

に就ても情報は色々ありましたけれども、孰れも極めて不明確なものであつたが、最近漸く内部の事情が稍々明瞭になつて來たのであります。殊に又御承知の様にはロシアの政情は種々變更して居りまして、今日まででも組織其他の點に於て種々變更を來したのであります、現在に於ては大体東洋方面には専ら第三國際共產黨が之れを司つてゐて、極東方面に對してはロシア共產黨と第三國際共產黨の二の系統から之れを支配してゐるのであります。即ち此の二の機關に依つて支那、朝鮮、日本に對する主義宣傳の計畫をしてゐるのであります。殊に第三國際共產黨の本部には、其の東洋部に日本人片山潜が部長となつて各種の采配を揮つてゐるのであります、片山潜が其の長となつて若干の日本人、朝鮮人を使つて東洋方面の仕事を總括してゐるのであります。今其の極東方面に於ける仕事に就て、ロシア共產黨と第三國際共產黨との關係を説明すれば次の様な次第であります。

浦潮に於ても從來共產主義運動に従事してをつた朝鮮人は多少居るのであります、是れも革命當時から今日まで朝鮮人仲間の間にも非常に剌戟内訌を繰返して來て、彼等の離合集散は全く常ならぬのであります、大体から言へば浦潮附近に於ける朝鮮人共產黨關係は、上海系統に屬しまする李東輝一派とイルクツク派に屬する金夏錫、崔高麗等の一派と、其れから後に上海の創造派に屬する尹海一派等の、此の三つの黨派が鮮人仲間の黨派としては相争つて居たやうな譯であります。其間には是等黨派間には色々複雑した關係がありましたけれども、現在では先づ李東輝一派の者が、露領に於ける代表的な朝鮮人共產黨であると云つて差支ないのであります。前の標題の處でお話して置いたやうに、朝鮮内の主義運動と云ふものが、從來多少ロシア共產黨と聯絡を取つてゐたことは、全く此の李東輝を通じての仕事であらうと思ふのであります。で今日の處では先刻お話しした通り、朝鮮内の主義運動と云ふものは、極めて統制

のない支離滅裂な状況になつてゐるが爲めに、ロシア共産黨との關係は非常に影の薄いものになつてゐるので、唯だ將來此の朝鮮内の運動者、ロシア共産黨と益々密接にクツ附いて行かうとして、朝鮮内の同志が猛烈に運動してゐると云ふ状況であります。

次ぎに然らば朝鮮の社會主義運動は、内地の主義運動と怎麼關係を結んで居るか云ふと、是れも現在の處では縦し關係があるにしても極めて微かな關係に過ぎないだらうと思ふ。私の觀た處では朝鮮内の運動と日本内地の主義運動との聯絡は、殆どまだないと云つて宜からうと思ふ。唯だ僅に東京に於ける鮮人左傾團體である處の、例へば無産青年會とか、或は一月會とか、或は螢雪會と云ふやうな團體を通じて、又は是等の團體に關係してゐる處の人物を通じて僅かに内地の一部の主義者と關係を保つてゐると云ふ程度に過ぎないのであつて、唯だ高津正道は朝鮮に何程か秋波を送つて居るのは事實であります。是れ

とても然し東京に於ける朝鮮人が、間に介在してゐるとも言ひ得るのであります。何んでも最近には高津正道は内地主義者の二三の者を朝鮮に引張つて來ると云ふやうな噂も耳にしてゐるのであります。

先づ直接の關係と云ふのは是れ位のもので、他に朝鮮の團體と内地の團體と直接に聯絡を取つてゐるやうな傾向はないのであります。唯だ内地に於ける社會主義者が、上海に於ける朝鮮の社會主義者、又は獨立運動者と多少の聯絡を有つてゐると云ふことも事實であります。けれども是れも餘り具體的の證據としては少ないのであります。唯だ先年近藤榮藏事件に依り、彼等が上海と聯絡を取つてゐたと云ふことが、端なくも世上に曝露せられたやうな譯であります。今日では兩者の關係は餘り明瞭でありませぬ茲に參考の爲内地に於ける左傾的思想團體を擧げて見ますれば、

一、東京に於ては

- イ、東京朝鮮基督教青年會
- ロ、朝鮮留學生學友會
- ハ、朝鮮聯合耶蘇教會
- ニ、東京天道教青年會
- ホ、無産青年會
- ヘ、一月會
- ト、螢雪會
- チ、女子學興會
- 二、大阪に於ては
 - イ、朝鮮留學生大阪學友會
 - ロ、朝鮮無産者社會聯盟
 - ハ、大阪朝鮮勞働同盟會

- ニ、城東勞働同盟會
 - ホ、關西朝鮮人三一青年會
- 等其の主なるものであります。

第四 衡平運動

朝鮮に於ける衡平運動は内地に於ける水平運動と同じものであります。白丁と云ふ特殊の階級に屬して居ります人物が、常民と同じ様に社會的待遇を受けたいと云ふことの運動でありまして、内地の水平運動と全然其の性質を同じうしてゐるのであります。白丁なるもの、由來に就ては色々の説があるのであります。今茲に一々是等の由來から詳しくお話してゐる譯には行きませんが、何れ詳細なる衡平運動に關する調査書を本縣下の各警察署に配布する積りでありますからして、詳細はそれに依つて御承知を願ひたいと思ふのであります。

抑も朝鮮に於ける衡平運動として運動らしいものゝ始つたのは大正十二年四月からであります。而して其の運動を開始するに至つた動機は今お話ししたやうな、代々社會の賤民として、常民から壓迫を受けて來たと云ふことの傳統的反應に因ることは無論の話でありますが、特に其の近因とも云ふべきは白丁の子弟の學校教育の問題が其の發端を成したのであります。是れは内地でも同じ様な徑路をとつてゐるやうに思ひますが、白丁の子弟が學校で教育を受けると云ふことは、常民の壓迫に依り殆ど不可能な狀況であつたのであります。けれども從來の墮勢に依り、さう云ふ壓迫に對して忍従を續けて來たのであります。然し世の中が段々進歩して個人の覺醒と云ふことが明瞭になつて、或は旺盛になつて來るに従つて平等の權利を主張するやうになつて來たのであります。斯くして彼等の權利の主張は先づ教育に對する機會均等問題から始つたのであります。今運動の經過を少しお話しすれば、慶尙南道の晋洲で、李學贊と云ふ

白丁の資産家があつたのであります。此の人が自分の子弟を教育する爲めに、幾度か普通學校に入學せしめやうとしたけれども、白丁と云ふ身分であるが爲めに、支障が多くて實現することが出来なかつたのであります。其後大正十一年の春、夜學校に金を百圓寄附して入學させて貰つたのであります。矢張り其後にも學校並に生徒の冷遇に堪えずして、遂に半途退學の已むない事情に立到つたのであります。其後更に京城の某私立學校に入學したのであります。が、是亦白丁であると云ふことが判つた爲めに半途退學しなければならぬやうになつたのであります。其後色々な方法を講じたけれども獨り李學贊のみならず、其他の多くの白丁の子弟も、同様に學校教育を受けると云ふことが非常に困難な事情が度重つて來た爲めに、心中甚だ平かでない折柄、恰度大正十二年の初め頃、内地關西各地で水平運動と云ふものが、段々熾烈になつて來たことを新聞紙上で見て、それで李學贊は自分の同志數名と共に、一二の普通常民の

援助を得て、茲に衡平運動の烽火を揚げるやうになつたのであります。故に朝鮮に於ける衡平運動の遠因は從來の非道な壓迫、差別待遇と云ふことであるが其の近因は教育の機會均等を得ないと云ふ學校の問題に因るものでありまして偶々内地に於ける水平運動の勃發に刺戟され、之れが動機となつて衡平運動なるものが南鮮の一角に狼煙を揚げたのであります。

それは大正十二年の四月でありました。衡平社期成會と云ふものを組織して茲に衡平運動の基礎を固めたのであります。其後各地の白丁に檄を飛ばして、各地で衡平社の分社を造つて、差別待遇の撤廢と云ふことに對する要望をして來たのであります。そして彼等同志間に於ても今日までの間に、色々勢力の爭奪がありまして、現在では前記の晋州と今一つは京城との二つに分れて、双方各々本部を置いて運動に従事してゐるのであります。

其處で此の衡平運動に關して特に注意を要すべき點に就て一言私の所感を

話したいと思ふのであります。

元來水平運動と云ひ衡平運動と云ひ特殊の階級にある人が、普通人の待遇をして貰ひたい、即ち待遇の衡平を保つて貰ひたい、自分等を水平線上に引揚げて貰ひたい、と云ふことの運動の如きは、是れは本然的に平等であるべき人類としては寧ろ當然の要求でありまして、内地は勿論のこと、如何に階級觀念が古來發達して居つた處の朝鮮と雖も、今日の時勢になつては、さう云ふ階級を存續して行くことの間違つてゐると云ふことは當然の事である。であるからして吾々は言ふまでもなく四民平等の人生觀に立脚して自他共に皆同様な社會的地位に並存すると云ふことは尤も至極なことであらうと思ふてゐるのであります。其の代り衡平社なり水平社なりの人々も、矢張り自ら改善すべきことは須らく改善して行つて、自らの地位を高めて行くことにならなければならぬのであります。さう云ふ具合に自ら改善して行く以上は之れを平等の地位

に置くこと云ふことは當然なことであらうと思ふ。此の點に就ては恐らくは天下
一人の異存を挟むものはあるまいと思ふ。然し乍ら若し是等運動が自分達を衡
平の地位に置き、又水平線に引上げよと云ふ要求を超越して、多衆の力を頼む
で其れ以上の専恣横暴なる行動をとると云ふことになつては、是れは容赦をす
べきものではなからうと思ふ。私は忌憚なく申しますと、内地に於ける水平
運動の如きは餘りに突き進み過ぎたやうに思ふのであります。即ち水平線上に
出ると云ふ運動以外に、些細な事柄を理由として、常民との鬭争を是れ事とし
何かあれば直に兇器を持つて暴行脅迫の態度に出ると云ふことは甚だ不都合な
行動と思ふのであります。故に是等の點に對しては國家は嚴重なる取締を加ふ
可きものであらうと思ひます。卑近の例を引いてお話しすれば、兄弟に菓子を
分けてやつて、一人だけ一番少く貰つてゐると云ふことを不公平であると云ふ
ので、之れを他の兄弟と同じ數だけやつた。處が、それでも尙ほ少いから、そ

れよりまだ餘計寄來せと云つて駄々を捻ねるのと同じやうな譯でありまして、
さう云ふ行動に對しては吾々は無論社會的の制裁を加へる必要があらうと思ひ
ます。

朝鮮に於ける衡平運動は内地の水平社のそれの如く酷いことはありませんけ
れども、矢張り動もすれば程度を越えて眞の衡平運動の目的以上に出過ぎると
云ふ傾向が遺憾乍ら多いやうに思ふのであります。吾々は正當なる運動に對し
ては極力後援もし援助も吝まないものであります。然し乍ら此の我儘な出
過ぎた點に對しては斷乎として取締を加へてゐるやうな次第であります。朝鮮
に於ける衡平運動が出過ぎた傾向を帯びてゐると云ふ一例をお話しすれば、常
民に對して喧嘩の種がなくなると云ふと、白丁の子供が自分で白丁と云ふ文字
を書いて、之れを常民の子供に何んと讀むかと質問をして、常民の子供が『それ
は白丁と讀むのである』と答へると云ふと直ぐに附近の自分の同志を呼んで來

て、此の子供は今自分のことを白丁と罵つたと云ふやうなことを言つて喧嘩を吹つかけたり、又今まで牛や豚の屠殺をしてゐた人間が、此頃常民から其の屠殺を頼まれると、屠殺を頼むだと云ふことを以て自分を侮辱したもんであると云ふやうな反抗的姿勢に出るやうな例があるのであります。

要之、常民對白丁の紛争と云ふことは、長年の壓迫に對する反抗であつて無理からぬのであります。けれども、孰れかと云ふと白丁の理不盡な反抗心に依つて殊更に誘發せられると云ふ場合の多いと云ふことを私は大變遺憾に思ふてゐる次第であります。

尙ほ朝鮮に於ける白丁の運動は先程お話ししたやうに、晋州と京城の二箇所に本部を置いて、其他全鮮各地に分社を組織して居ります。けれども、何分朝鮮全体に於ける白丁の數は僅に十萬を越えないと云ふやうな状態でありますから（普通四十萬程あると云ふけれども、實際に調査すれば五、六萬乃至十萬位

であらうと思ひます）其の結社の力も割合に薄弱でありますし、従つて又其の勢力も貧弱でありますから、別に是れと云ふ運動はやつては居りません。

唯だ何處か一ヶ所で常民との喧嘩でもあつた時には、直に全鮮各地に檄を飛ばして互に聯絡を取ると云ふ位のものであります。幸ひ衡平社自体が特殊の運動を平生やつてゐないのみならず、社會主義者等との聯絡も比較的今日の處では少いのであります。先づ殆ど聯絡はないと云つても差支ない程微かなものであります。又朝鮮の衡平運動が内地の水平運動と聯絡を取つてゐると云ふやうな場合も随分あるさうでありますが、私共の觀る處では内地の水平社と聯絡を取りたいと云ふ希望は或はあるかも知れませんが、現在の處では聯絡はないと思ふて居ります。這是或は寧ろ内地の水平社本部に於て、朝鮮の衡平運動と聯絡すると云ふことの希望を有つてゐるのではなからうかと思はれるのであります。勿論水平社員なりと稱して色々の人が渡鮮をして參つて、蠢動してゐる

者も澤山ありますけれども、是等は本當の水平社の使命を帯びて來てゐると認められるものは絶無であります。大抵無賴の徒がパンを獲んが爲めに徘徊してゐるに過ぎないやうな實際の狀況であります。

要するに朝鮮に於ける衡平運動は多少出過ぎた點もないではありませんけれども、今申しましたやうな狀況でありますからして、大体に於て先づ運動は特殊の刺戟のない限りは平穩であると云ふことは言ひやうと思ひます。

第五 宗教類似団体

朝鮮には御承知でもありませんが、色々な宗教類似の団体が澤山あります。天道教を筆頭にいたしまして、侍天教、大極教、大宗教、檀君教、青林教、普天教、仙道教等、其他數へ來れば随分澤山の団体があるのであります。是等の団体は多くは迷信を説いて、常に荒唐無稽の説を流布して愚民を迷はすものが多いのであります。特に此の内でも天道教、侍天教、普天教の如きは相當の教

徒を有つて居りますから、之れが指導如何に依つては随分禍根を遺すことになるのであります。大正八年の朝鮮騷擾事件は天道教徒に依つて采配を振られたものであります。それで是等の宗教類似団体は、昔は迷信の部類に屬する程度が極めて濃厚であつたのでありまして、殊に又普天教の如きものは從來全く迷信のみを以て固まつて居つた處の団体であります。當局の方では是等の団体を取扱ふ上に於て、餘程細心の注意を拂つてゐるのであります。警察取締の上に於ても單に宗教類似団体なるの故を以て、頭から嚴重に取締を行ふ必要もないのであつて、要は實際に彼等が布教する處の行爲に依つて取締を行つて行けば宜いのであります。宗教と公認せられた団体であつても、其の手段方法が悪ければ無論取締を爲すべきものである。宗教と公認せられて居らないからと云つて、其の手段方法さへ不穩當のものでなければ、強ち頭から之れを壓迫する必要はないのであります。又是等の団体は壓迫に依つて決して取締の目的

を達することは出来ないであります。殊に況や今日内地に於ても随分迷信に亘るやうな宗教類似のものも少くないのでありますから況や民度の低い朝鮮に於て多少迷信に駛ることがあるとしても、之れを餘り峻烈に叩き付けると云ふことは如何がなものと考へられるのであります。斯様な方針で取締をやつて居ります爲めに、朝鮮に於ける各種の宗教類似団体は、漸次明るみへ出て堂々と布教すると云ふ傾向が段々濃厚になつて來たやうに思ふのであります。這は一個人の意見でありますが、當分此の方針を以て進んで行くことが、現下の朝鮮としては必要なことではなからうかと考へて居るのであります。

各宗教類似団体の宗旨と云ふやうなものは、私も専門家ではありませんから勿論熟知内容は知りませんが天道教、侍天教、大極教等は東學の流れを汲んで居るものであります、即ち天道教は今から約六十三年程前から（日本の文久元年頃）慶尙北道の人で崔濟愚と云ふものが居つたのであります、此者が

「道を天に享け」と稱して儒、佛、仙の三教を折衷して、そして一家の學を樹て、其の學問を東學と謂ひ、其の道を天道と稱した譯であります。是れが即ち天道教の初まりでありまして、第一世教主崔濟愚は迷世惑民の罪名で死刑に處せられ、第二世の崔時亨も是れ又同じく死刑に處せられ、第三世の孫秉熙が大正八年の朝鮮獨立運動の主謀者となつて、處刑せられた其刑の執行中に死んだ様な譯であります。此の天道教が東學の代表的なもので、侍天教以下上帝教青林教、濟世教は皆此の流れを汲んでゐるのであります、他の類似団体は孰れも儒教若くは道教—の流れを汲んで居るのであります。鮮内に於ける運動狀況は是れ位にして置きまして、次ぎは鮮外狀況をお話したいと思ひます

鮮外の状況

鮮外に於ける状況は大正八九年頃相當の勢ひを以て進んで居つたやうであります。現在では段々衰微いたしましたして、吾々が力瘤を入れなければならぬやうな運動と云ふものは殆どないのであります。けれども、各方面共前からの墮勢に依りまして、今日尙ほ多少の行動を繼續して居りますし、又將來とても是れに資金を供給し、新たなる力を賦與すれば、更に大同する傾向がないでもありません。のみならず共産主義的運動も多少はありますからして、茲に一通り説明いたして置きたいと思ふのであります。國外の運動も煎じ詰めて申しますれば、先づ第一は所謂上海の假政府の状況、次ぎは爆彈等に依つて破壊暗殺を目的としてゐる暴力団体の状況、次ぎは滿洲に於ける所謂武力不逞團の状況、其の次ぎは露領及支那に於ける不逞鮮人並に主義運動の状況、次ぎはア

アメリカ、ハワイ、其他歐羅巴に於ける不逞運動の状況と云ふやうな範圍になるだらうと思ふのであります。

第一 上海假政府

彼の所謂臨時政府と稱するものが上海に出来て居りますが、此の抑もの起りは上海が歐羅巴方面に参りまする中繼の場所であると云ふ關係上、又上海と云ふ土地柄が彼等の陰謀を企む上に於て適當の場所であると云ふやうな關係からして、大正四年頃から朝鮮人の陰謀團體が出来て居つたのであります。即ち大正四年に大同輔國團と云ふものが出来上つて申奎植、朴殷植と云ふやうなものが首領になつて、佛蘭西租界に本部を置いて、國事に就て色々奔走をして居つたのであります。大正六年の八月に瑞典ストックホルムに於て萬國社會黨大會と云ふものが開かれましたが、此の大會に朝鮮社會黨の名前を以て委員を上海から派遣したのであります。是等も今申上げた大同輔國團と云ふ團體が其

の原であらうと思ふのであります。それから越えて大正七年に歐洲戰亂が終結を告げまして、巴里で講和會議が開かれるやうになり、上海から代表者を派遣して、朝鮮の獨立問題に對して色々奔走したのであります。勿論此の運動は失敗に終つたのでありますけれども、兎に角斯様な運動をやつたのは事實であります。それから大正八年の三月に高麗共產黨と云ふものを組織して、機關雜誌として『我等の消息』と云ふものを發行して、専ら朝鮮獨立運動の爲めに氣焰を揚げて居つたのであります。そして其の當時は鮮内では三月一日に、例の萬歲騒擾が勃發いたしました間もなく、五月頃になつて、上海で所謂臨時政府と云ふものゝ組織が企てられたのであります。そして彼等は李承晩を首班にして假政府の組織を定めて、形式だけは日本の内閣を眞似したやうな組織が出来上がったのであります。爾來今日まで所謂假政府の首腦者が度々變りまして、最近大統領李承晩を排拆して朴殷植と云ふのが大統領になつたと云ふことを聲言

してゐるのであります。成程、名前だけは大統領であるとか、或は内務總長であるとか、交通總長であるとか云ふやうな仰山らしい名前をつけて名聲ばかり如何にも國家の政府のやうな感じもし、體裁だけは極めて好いやうでありますけれども、由來朝鮮人は言語文章の民でありまして、其の口にすることは洵に立派なことを言つて居りますけれども、一度此の假政府なるものゝ正體を視ますると實に惘然たるものであります。佛蘭西租界で僅に天井裏のやうな處に住ひをして、月に三十弗の家賃も拂ひ兼ねてゐると云ふやうな狀況であります。殊に又朝鮮人は非常に勢力争ひ、内訌などを起すことの好きな民族でありまして、總ての團體、總ての會合に於ても、悉く是れ嫉視排擠すると云ふ現象は、如何なる場合にも現はれてゐるのであります。此の上海假政府に於ても、此の排擠内訌の爲めに常に紛亂を極めてゐるのであります。

最初、所謂假政府の成立後一二年の間は、鮮内の人心も、又ハワイ、アメリ

カ、其他に於ける朝鮮人も、何んとか朝鮮の爲めに大なる活動をするのではあるまいかと云ふことを考へて居つたのであります。度々彼等に奪はれる處の所謂軍資金なるものは、彼等の暗闘や、又は酒食の資に費されて了ふと云ふことが段々明瞭に解つてゐるし、又彼等が聲明して居つた獨立と云ふやうなことは、一向實現しそうもない。茲に於て段々鮮内外の信用を失つて、如何に朝鮮人の智識の程度が低いと云つても、左様な詐欺、偽計に何時までも關はつてゐると云ふ程愚かではないのでありますから、段々彼等の窟が剝けて、遂に一般から相手にせられないやうな狀況に立到つたのであります。今日では僅に國外の方から多少の金を貰つて、表面の維持はしてゐるけれども、彼等の財政の窮迫と云ふことは、殆ど其の極度に達してゐるし、加ふるに内訌は頻發して到底收拾の出来ないやうな狀況に立到つて居るのであります。故に過去の經路を考へて見ると云ふと、將來と雖も無論大した働きが出来ないのみならず、孰

れ寂滅する日も遠くはなからうと思はれるのであります。

第二 暴力団体

茲に謂ふ暴力団体と云ふのは、爆弾又は拳銃等に依つて官公衙を破壊したり大官を暗殺することを主たる目的とする団体であります。第一に指を屈するのは先づ義烈團であらうと思ひます。一体大正八年上海に所謂假政府なるものが出来上つた當時から、救國冒險團とか、又は鉄血團とか云ふやうなものが引續いて存在して居つて、専ら暴力運動に耽つてゐたのであります。然し是等は孰れも一年間位で消滅いたしましたして、大正十一年(?)頃から所謂義烈團なるものが現はれたのであります。義烈團と云ふのは諸君が既に情報でも熟く御承知の通りに、金元鳳と云ふものに依つて率ひられて居る、約五六十名の団体であります。其の組織などは極めて秘密にしてゐる爲め、團員などの數も明確な處は判り苦いのであります。此の義烈團が出来上つてから此の方、朝鮮内外に

亘つて盛んに活動して爆弾を投擲した額も随分少くないのであります。朝鮮内に於ても總督府を初めとして、或は平安南道の警察部であるとか、或は密陽の警察署であるとか、釜山の警察署であるとか、其他數ヶ所に爆弾を投擲しました。又豫てから内地に侵入すると云ふ風説があつたんであります。遂に大正十三年になつて不幸にも之れが實現して、即ち金社燮が二重橋に爆弾を投擲したと云ふやうな不祥な事件も發生したのであります。一体此の義烈團の頭目である處の金元鳳は、元吉林方面の獨立團に加入して、専ら爆弾に關する仕事を擔任して居つたのであります。當時此の不逞團の中に金元鳳と、今一人同志の者が居りまして、此の二人が相携へて朝鮮獨立運動の爲めに盡力すると云ふことを誓つて、それから金元鳳は北京に行つて、義烈團と云ふものを起し、今一人の彼と契りを交はした友人は専ら主義運動の方面に駛つたのであります。其の一人の友人と云ふのは即ち今京城で北星會系の主義者として活躍して居り

ます金若水であります。金元鳳は別名金若山と云つて、此の二人は共に山、水の一字宛を自分の名につけてお互に誓をして居るのであります。それで金元鳳は最初北京に根據を置いたのでありますけれども、其後上海に移つて、今では上海を根據といたして居るのであります。此の義烈團の組織は、四、五名の幹部を置いて

團長 金元鳳 慶南密陽 別名 金若山
 幹部 韓鳳根 全 別名 なし

全 金相潤 全 別名 金玉

全 李鐘淳 慶北大邱 別名 梁建浩、梁達浩、楊根浩、梁權鎬

全 尹滋英 慶北青松 別名 尹蘇野、本人は後に分離して青年同盟會を組織す

其の下に五六十名の黨員を置いてゐるのであります。團の仕事は専ら此の幹部の手に依つて實行されてゐるのであります。其の下の團員に於ては、お互

に團員たることすらも知らないと云ふ位、秘密に保たれてゐるのであります。處が昨年四月頃から此の義烈團の幹部の中に内訌が起りまして、即ち尹滋英一派のものが、金元鳳の無能であると云ふことに愛憎を盡かして、彼等の團體から獨立して分離するやうになつたのであります。それが後に説明する青年同盟と云ふものであつて、さしも横暴を極めて居つた處の義烈團も、此の仲間割れの爲めに漸く衰微いたしましたして、今では殆ど金元鳳だけが残つて、纔かに其の殘壘を守つてゐると云ふやうな状況であつて、眞に孤城落日の感がするのであります。

次ぎは青年同盟であります。是れは今お話したやうに金元鳳の參謀格であつた尹滋英が、團長金元鳳に反旗を翻して、自分で別に青年同盟と云ふ一の團體を造つたのであります。其の目的は勿論義烈團と全然同じで、破壊暗殺を目的としてゐるのでありますから先づ義烈團の延長とも云ふべきものであ

ります。是れも目下の處、運動資金に缺乏してゐる爲めに、花々しい活動はしてゐないのでありますが、是れも將來金でも手に入るやうになれば多少頭でも擡げて來やしないかと思ふのであります。

其の次ぎは雷聲團と云ふのでありますが、是れも義烈團と同じやうな目的を有つてゐる團體でありまして、其の根據が南京であると云ふことは、殆ど確實であらうと思ふのでありますが、其の内容に至つては全然不明であります。

其の次ぎはタームル團と云ふものでありますが、是れも其の根據地は北京であるか、或は又西間島方面であるかは明瞭でないのでありますが、私共今の處では其の根據は西間島であつて、北京、上海方面に其の支部と謂はうか、兎に角團員の一部の者を窃かに派遣して活動してゐるやうに思はれます。其の目的は親日派を掃蕩すると云ふことが主眼になつてゐるのであります。即ち暗殺を目的としてゐる點に於て義烈團等と同じやうな性質のものであります。

第三 滿洲に於ける武力不逞團

次ぎに滿洲に於ける武力不逞團の狀況をお話いたします。新聞雜誌などに屢々出て參ります所謂不逞鮮人とか、或は武力不逞團とか謂ふことは、滿洲方面殊に鴨綠江對岸に於て、朝鮮人の團體が武力に依つて朝鮮に侵入を企て、或は親日鮮人を殺し、或は日本の官公署を襲撃して、又は軍資金と稱して金を強奪して行くと云ふやうな行動をする團體のことを總稱してゐる言葉であります。今武力不逞團の運動をお話するに就て、先づ順序として此の武力運動の起原に就て少しくお話して見やうと思ひます。此の起原と申しましても日韓併合前後の極く遠いことは暫く措いて、私は主として大正八年朝鮮制度改正前後の事からお話をしたいと思ふのであります。

恰度私が朝鮮に參りましたのは大正八年十月十七日でありまして私はやはり警務局に勤務して居りましたが其の當時は不逞鮮人が武力を以て朝鮮の國境に

侵入して來ると云ふやうな情報が頻々として到つたのであります。そこで、今にも來るかと思つて居つた處が一向來なくて、大正八年はさう云ふ情報ばかりで終つて了つたのであります。越えて大正九年になりました、三月十五日に恰かも日を同じうして平安北道と咸鏡北道の二ヶ所に不逞團の襲撃が行はれたのであります。國境二道が同じ日に恚う云ふ襲撃事件のあつたと云ふことも奇妙な話であります。その事件は咸鏡北道の最も北端に穩城郡と云ふ郡があります。其處の穩城警察署の管内で、署から約三里東北の方に當つて居ります。豐利洞と云ふ駐在所に、武装した不逞團が約三十名ばかり襲撃して來て、駐在所に向つて發砲したのであります。すると我が警察官は直に之れに應戦しまして賊を撃退して我れに何等の損傷は無かつたのであります。處が平安北道に於ては恰も此の日、宣川郡對山面と云ふ所に、武装をした處の約十名ばかりの匪賊が侵入して參りまして、其の面長を銃殺し、面の公金を強奪して逃走した事件

があつたのであります。此の事件を最初として平安北道並に咸鏡北道の兩道に又其の後咸鏡南道の方にも現はれて參つて、兎に角國境三道と云ふものは頻に彼等が出沒いたすやうになつたのであります。此の形勢が暫く續いて居りましたが、大正九年の九月に咸鏡北道對岸の琿春と云ふ領事館が、朝鮮人混入の馬賊の襲撃を受けたことがありましたので、其の際朝鮮側の方では咸鏡北道對岸一帯に亘つて、即ち間島、琿春の平野一帯に亘つて出兵をいたしまして、警察隊も之れに參加して、共同して匪賊の討伐に従事したのであります。其の結果琿春、間島方面に散在して居つた處の不逞團は全部討伐せられたか、左もなければ東支沿線地方、又は西間島方面に全部遁竄をして終ひまして、爾來間島方面に少しも賊影を見出さないやうな状態になつたのであります。咸鏡北道對岸は斯様な次第で大變に平穩になつたのであります。鴨綠江對岸は依然として匪賊の蠢動は行はれて、毎年相當の人命と財産を犠牲にしてゐるやうな次第

であります。

處で茲で此の不逞鮮人の討伐に就ての困難な状況を一言お話ししたいと思いますのでありますが、是等の武力不逞團と云ふものは、ズット以前から國事に不平を懷いて海外に飛出した者とか、又は日韓併合の際に不平を懷いて滿洲に飛出した者等が相集つて斯の如き武装團を組織したのであります。彼等蠢動の場所が日本の領土であるならば恣麼ものを討伐することは實に尋常茶飯事でありますけれども、何分彼等の巢喰つてゐる所は、江を隔て、支那の領土であります。即ち外國の領土であります。而も支那官憲の力は自分の國に仇なす馬賊でさへも討伐することの出来ないやうな状況でありますから、殊に況や支那人に何等の危害を加へない處の、而して又支那側から云はせればあれは政治犯であると云ふ理窟の付け得る彼等の運動に對して、人命の犠牲を拂つて迄眞劍な取締をやらぬと云ふことは寧ろ當然な話でありまして何も不思議はありません。而し

て朝鮮側としては江を越えて支那地に侵入して不逞團を討伐すると云ふことはなか／＼至難であります、一体支那と云ふ國は形式論のやかましい處で。やれ主權侵害だの、内政干渉だのと言つて理窟を謂ひたがるのであります。が特に近頃の支那は反帝國主義運動等に依つて隨分鼻息が荒く、事毎に利權回收と云ふ態度に出るのでありますから此頃では特に吾警察官が武装して越境進撃をやることに對して氣狂の様に抗議を申込んで來る實況であります、それでありまゝするから朝鮮の國境守備の警察官と云ふものは、進んで越境進撃をすると云ふことは出來ずして、敵が鮮内に侵入して來るのを待つて、之れを撃滅しなければならぬやうな非常に不利益な守成の立場に立つてゐるのであります。之れが討伐の上に於て最も困難な點である。同時に不逞團に取つては最も活動のし易い事情にあるのであります。けれども朝鮮側に於ても所謂背に腹は代へられない爲め、必要已むを得ざる場合に於ては、越境して討伐すると云ふことも絶無で

はないのであります。

恁う云ふ具合でありまして、日本官憲の方で思ひ切つて討伐をやると云ふことも出来ないし、去りて支那側をして之れを討伐せしむることは之亦到底出来ない事であるとすれば、彼等が思ふ存分支那側で蔓つて機會をねらつては江を越えて朝鮮内に涉つて來ると云ふことは、怎うも當分の間已むを得ない狀況ではあるまいかと思ひます。恁う云ふ狀況でありますからして、國境警察官の警備の苦心も實に一通りではないのであります。

話は復た元へ戻りまして、大正十二年以後咸鏡南道の方も全く靜穩になりまして、現在では鴨綠江對岸の中でも主として平安北道の對岸だけが、斯様な情勢を示してゐるのであります。是れが爲めに大正九年以來今日まで彼等の兇手に懸つて身命を亡くした者が、人民側に於て一年平均三三人強、警察側に於て平均八人と云ふやうな數字を示して居るのであります。然し乍ら對岸の不逞團

の力は、何れ程の實力を有つて居りまするか云ふと、彼等の最も旺盛であつた大正九年頃には、北間島、西間島、並に琿春方面にかけて三百人乃至四百人多きは五六百人を一團とする處の不逞團が各地に散在して居つたのであります。或は大韓軍政署とか、又は光復團とか或は大韓獨立團とか、或は光清團とか云ふやうな色々の團體の名前を附けて、盛んに活動して居つたのであります。が、段々財政の窮乏を告ぐるし、一方又漸次時勢に目覺めて來るに従つて、是等の團體は何時とはなしに自然に解散をし、又は當局に飯順を願つて來て、現在に於ては唯だ鴨綠江對岸に正義府と新民府と駐滿參議府と云ふ三つの團體があるだけであります。他は悉く無くなつて終つたのであります。でよく情報なんかに出て來る大韓統義府と云ふのは、今では正義府に依つて併合せられたのであります。其の團員は全体で七、八百餘りであつて、銃器は人員の約八割位行渡つてゐるやうに思ふのであります。彼等の採用してゐる處の銃器は比較的

精銳なものであつて、原則としてモーゼル拳銃を有ち、我が日本の四〇年又は四四年式の騎銃を有つてゐるものもあります。又外國製の長銃等も相等有つて居るのであります。而して彼等の組織は全く軍隊式でありまして、我が日本の制度を其儘模倣してゐるのであります。其の訓練の方法も全く日本の遣方を模倣してゐるのであります。彼等も今では自分達の姿を眺めて衷心では井底の痴蛙たることを慙愧に思つて居ることは事實であります（彼等が其子及近親等に寄する便りに依り）が今迄の行懸り上今更オメ〜と朝鮮に歸られないと云ふのが全くの真情であります。

第四 國境警備の狀況

次に國境警備の狀況をお話いたします。滿洲、朝鮮の國境には御承知の通り白頭山と云ふのが其の中央に屹立してゐます。其處から源を發して西に流れて黃海に注ぐものを鴨綠江と謂ひ、東に流れて日本海に注ぐものを圖們江と申

します。此の白頭山を中心として鴨綠、圖們、兩江を以て支那と朝鮮との境界となつて居ります。而して此の二つの江の延長は八一三哩でありまして、之れを内地に比較して見ますと、下の關から栃木縣の黒磯までより尙ほ少しく長いのであります。そして接壤地帯としては露、支兩國に境して居ります。之れに對する警備機關としては、警察官が先づ第一線に立つて警備を引受けてゐるのであります。之れに配置してゐる處の警察署の數が、第一線、第二線を通じて二十九、駐在所出張所の數が三一〇ヶ所、警視が四人、警部が三十七人、警部補が九十三人、巡查が二千四百三十七人、之れが一哩に對する巡查の數は三人弱と云ふ割合になるのであります。此の巡查の中には第二線の者も這入つて居ります。又内勤に従事してゐるものも這入つて居ります。又警察署所在地に勤務してゐるものも這入つて居ります。實際江岸に立つて勤務に従事してゐる巡查の數は、一哩に就て一人餘り、一人半位の勘定に

なるのであります。河を隔て、對岸が何分支那領土であつて、其の支那官憲の取締程度は先程お話ししたやうな譯であります。而して朝鮮内に於ける警察官の配置が斯の如き状態であります上に河幅も上流の方では非常に狭いのみならず、殊に冬季結氷すれば何處でも人馬の交通容易でありますから國境警備と云ふことに對しては、實に言ひ知れない苦心が其處に存して居るのであります。

私も大正十一年の六月から大正十二年の六月まで約一ケ年間咸鏡北道の警察部長として國境警備の重責を擔ふたのであります。實際現地に臨んで吾々の僚友が警備をして居ります其の勤務の状況を視る時に、唯だ々々感謝の外はありません、而してお上の方で彼等に酬ゆる處がまだく足りないと云ふことを痛感する次第であります。話は少し餘談に亘りますが、此の點は吾々お互に御奉公をしてゐるものとして、勤務の如何に酷いかと云ふことに就て、何程か内地の同僚諸君に御參考にして頂ければ非常に幸ひであると思ふのであります。

が私も内地では比較的寒いと謂はれてゐる處の長野縣に約六年警察の勤務をいたしたのであります。内地では朝鮮の國境に較べれば、怎んなに寒い所でも知れたものであります。朝鮮の國境地方では、嚴寒の候は、零下四〇度に降ります。盛夏の候は百度近くに昇るやうな有様でありまして、それに宿舍も極めてお粗末千万なもので、朝鮮人の『温突』^{オンダツ}を借受けてゐると云ふやうな有様であります。(尤も駐在所並に宿舍は漸次改善せられて居りますけれども)其處に我が警察官は妻子と共に暮してゐるのであります。そして殆ど夜中不逞鮮人の襲撃と云ふことに氣を配つて、常に銃を枕にして假眠を結ぶと云ふやうな有様でありまして安き夢を結ぶことは出来ないのであります。そして婦人の如きも大抵は拳銃位を傍に置いて寝てゐるのであります。現に平安北道の舊邑駐在所に於ては、大正十二年一月不逞鮮人の襲撃を受けました際に、主人は銃を執つて應戦いたしますし、細君も拳銃を執つて匪賊の撃退に努めて居りました。

處が賊一名を斃した後に、其の細君は遂に賊彈の爲めに頭を射抜かれて其場に即死いたしました。子供三人を遺して國家の爲めに斃れたと云ふやうな悲惨な事例はあるのであります。

又平安北道の秦川警察署長の本多と云ふ警部は、自分の管内に匪賊の被害が非常に多い爲めに、晝夜其の捜査に従事して居つたのであります。或る晩數里先きに、武装してゐる賊團が三名ばかり徘徊してゐると云ふ報告に接して恰度其時自分は健康を害して居つたのであります。連日連夜部下を酷使してゐる爲め、今晚は先づ部下を出来るだけ休養せしめて置いて、自分が出て行くこと云ふ決心をいたしました。鮮人巡査一名を伴れて捜査に向ひました處が、途中で賊と出會つて直に銃火を交へました處が、不幸にして署長は賊彈に中つて斃れたのであります。

斯様な話は朝鮮國境に於ては枚舉に遑ないのであります。吾々は斯様な人

の英雄的の行動を観るにつけ、又主人の爲めとは言ひ乍ら、彼の僻陬な沙胡吹き荒ぶ江岸で、内地人などには殆ど行き會ふこともないと云ふやうな所で、夫君を輔けてゐる處の家族のものを視た時には、全く感激の涙に咽びます、そして乃公達は勿体ないと云ふ感じが腦一杯起るのであります。又私が居りました威鏡北道邊では、醫療機關が少ない爲め、病氣に罹つても醫者の藥を飲むと云ふことは出来ません。それで或る巡査の如きは病氣になつて、愈々死ぬる間際まで、一度で宜いから是非醫者に手を握つて貰つて死にたいと云ふことを言ひ續けて、到頭瞑目したと云ふやうな實際の例もあるのであります。勿論年々是等國境勤務の警察官に對して、優遇の方法は講せられて居りますけれども、未だ以て其の勞苦に酬ゆるには甚だ遠いことを思ふのであります。而して彼等が純真な心を以て國境警備の第一線に立つて、奮闘してゐると云ふ態度は洵に立派なものであります。私は確かに人生に於ける偉業であらうかと思ふのであり

ます。多少我田引水のやうになりましたけれども、確かに辛苦困難な程度は到底内地に於ては想像することも出来まいかと思ふのであります。吾々の同僚が朝鮮の國境に於て奮闘して居りまする今申上げた狀況が幾らかでも、後進の教育の上に御参考になるやうなことがあれば大變仕合はせだと思ふのであります。

一寸茲で序で、ありますから國境の事件と朝鮮の治安の問題との關係に就て一言お話して置きたいと思ふのであります。或は前にも少し述べて置いたかも知れませんが、近來内地に於ても朝鮮の問題特に治安の問題に關して相當議論を新聞又は雜誌等に散見するのであります。是等の議論の中で朝鮮の治安の狀態を非常に險惡であると云つて悲觀してゐるやうな議論があります。『朝鮮總督府が朝鮮の治安狀態が良好であると云ふことが如何にも總督府自体の宣傳であつて、實際に於ては甚だ憂慮すべき狀態である。現に國境に於ては

不逞鮮人の爲めに良民が殺されて、又官公署等が襲撃せられてゐるやうな狀況であつて、朝鮮治安の狀態は當局が宣傳するが如く而く平靜なるものではないのである云々』と云ふ議論であります。是れは内地に居つて地圖の上で朝鮮を見、又は朝鮮に所謂視察をやつて汽車の上から觀た位の智識で、朝鮮治安の問題を論議すると云ふことは非常に謬りであり、又有害なことであらうと思ふのであります。成程先程申上げたやうに、國境に於て多少の事件のあると云ふことは事實であります。良民が殺され、官公署が襲はれたと云ふことも事實であります。然し乍ら不逞鮮人が蠢動して居ります處の領土は對岸支那地である。是れが最も是等の微菌を培養するには絶好の場所であります。そして圖們江、鴨綠江は大きいと云つても上流になると河幅も極めて狭いものであつて、舟なり筏に依つて自由に活動が出来ますし、若夫れ冬季結氷するに及んでは人馬の行通全く自由であります。斯様な譯でありますから對岸支那地に巢を

喰つてゐる處の不逞團が、暗夜に乗じて朝鮮内に潜入すると云ふことは無論容易に出来る事柄であります。故に斯様な特殊の情勢に在る國境に於て、少しばかり匪賊の被害があるからと云つて、之れを以て朝鮮全道の治安の問題と混同せらるゝことは甚だ迷惑であるのみならず、極めて暴論であらうかと思ふのであります。勿論警察事故としては決して輕々に看過することの出来ない事柄である。出来得れば斯様な匪賊の被害と云ふものを一件もないやうにしたいと云ふことは吾々の望みであります、けれども是れは經費に關係を及ぼすことであつて、現在の經費を以てしては如何なる手段方法を用ゐても、是れ以上のことは出来まいと思ふのであります。又朝鮮の一角に於て多少の事件があると云ふことは遺憾乍ら已むを得ないことでありまして、是れ位のこととは或る點まで覺悟しなければならぬものではなからうかと思ひます。乍然、之れを以て如何にも朝鮮全体の治安が紊されてゐると云ふやうなことは、實に滑稽の議論であると

謂はざるを得ないのであります。よく内地の人が、而も官吏又は相當の軍人で京城などに來て、拳銃でも持つて居なければ一步も歩かれないかのやうな質問をする人も少くないし、甚だしきに至つては下の關に着いたら早速ピストルを飢身に着けて釜山に渡つて來たが、サテ來て見ると情勢の意外なのに驚いて、私かに拳銃を靴の内に仕舞ひ込んで澄まして居つたと云ふやうな事例もあるものであります、所謂朝鮮不穩論なるものは、恚う云ふ人の口から出てゐることであらうと思はれますが、何分冒頭にお話して置いたやうに朝鮮問題に對する理解が、日本人全体に少ないことを憾みとする。批評は人の自由であります。然し乍ら斯の如きの外れの妄評は治鮮策の上に於て時に或は意外な支障を來すことがないではないと思ひますから、茲に一言説明をして置く次第であります。國境警備狀況は是れ位にして置きまして、是れから在外鮮人の行動に就てお話しして見たいと思ひます。

第五 アメリカ並にハワイ方面に於ける状況

アメリカ方面に於てはズット以前からワシントンに歐米委員部なるものがあつて、少數の朝鮮人が其處に獨立運動の奔走をして居つたのでありますが、現在に於ても引續き多少の運動をやつて居ります。怎んなことをやつてゐるか云へば先づ、パンフレット等に依つて朝鮮の獨立運動を海外に紹介したり、又は何か國際的の會合でもある際には、外國人の後援に依つて、極力朝鮮の問題を解決することに努力してゐるのであります。從來開かれた平和會議でも、又講和會議でも、或は國際聯盟會議でも、總ての機會に猛烈な運動をやつたのであります。是等は孰れも不成功に終つたのでありますけれども、活動だけは常にやつてゐるのであります。アメリカにゐる朝鮮人は鄭煥景 (Henley chung) 徐載弼 (Philip Jason) と云ふ兩人を指導者としてゐるのであります。殊に徐載弼の如きは相當の學問もあるので、アメリカ人など、聯絡をとつて、年中獨立

運動の爲めに奔走してゐるのであります。多分今度ハワイに於て開かれる汎太平洋會議に、世界の基督教關係の人達が集つて會議をすると云ふことになつてゐるのであります。此の會議にも、何か朝鮮人が活動するんではあるまいかと想像されるのであります。ハワイには朝鮮人が五三〇〇名程在住して居りまして、ハワイ居留團と、ハワイ獨立團との二つの團體があつて、孰れも獨立運動費として會員から金を徴集してゐるのであります。彼等の活動の状況は矢張り米本土にゐるものと同じであつて、専ら宣傳等に依つて獨立運動の目的を達成しやうと努めてゐるのであります。此處にゐる朝鮮人の獨立運動は、斯様な次第で兇暴ではないけれども、相當根を有つてゐる處の運動と見ることが出来るだらうと思ひます。

第六 歐羅巴に於ける朝鮮人の状況

歐洲各國に在住してゐる朝鮮人の數は大正十三年六月外務省の調査に依ると

ロンドン一、ハンブルグ二一、パリ一四、スイツツル二、オーストリア二、計三〇名と云ふことであります。けれども最近ドイツから飯つた朝鮮人の談に依ると、ドイツで五二・三、スイツツル二、イタリー二、フランス一五〇、オランダ約四〇、イギリス一〇、合計二五〇名位であると云ふことであります。けれども這是勿論正確の數字と云ふことは出来ません。それでは歐洲にゐる朝鮮人の運動の状況はと云ふと矢張り米國方面と同じやうな状況であつて、今日までの間に色々のことをやつては居りますけれども要之、各種の團体的會議、又は團體等に、出來得るだけの機會を利用して、朝鮮獨立の意志のある處を懇へると云ふことに努めてゐるのであります。乍然、それ等の運動は今日まで何一つとして成功してゐるものはありません。唯だ歐米に於て、外國人で此の朝鮮人の運動に同情してゐる人に、カナダ出身の英人で、元ロンドンのデリー・メールの記者をして居つたマツケンジと云ふ人があるが、此の人が非常

に朝鮮人の境遇に同情しまして、自分で自ら『韓國の慘狀』及『朝鮮人の自由觀』と云ふ本を發行したり、又英國下院に於て『朝鮮親友團』—The League of The Friends of Korea—と云ふ團體を組織したやうなことがあるのであります。そして非常に朝鮮人の境遇に同情して居りましたけれども、是れも何等の効果はなかつたのであります。のみならずマツケンジは、大正十一年アメリカに於ける太平洋會議の状況を、大統領李承晩に對して手紙を送つて『華府會議は、朝鮮が永久に日本の一部分であると云ふことを決定した。故に將來は偏に日本帝國に依頼して、其の日本の諒解に依つて朝鮮の前途を決定しなければ不可ない』と云ふ意味の書面を送つたと云ふことであります。恐らく從來やつて居つた運動が謬りであると云ふことを覺つて、而して彼が李承晩に之れを注告したものであると思ふのであります。

次にフランスでは大正八年の終り頃に、朝鮮人がパリに集つて『在佛韓國

民會』と云ふものを組織したが、是れが歐洲に於ける朝鮮人団体の初めであると云ふことであります。是れも現在に於ては殆ど有名無實なものになつてゐるのだらうと思はれます。又獨逸では『留獨高麗學生會』なる團體があつて、大正九年頃に組織せられたものであります。今では會員も減少して、現在では僅々二〇名内外のものであると云ふことである。それから又ベルリンの郊外ポツダムでは朝鮮人俱樂部と云ふものがあつて、是れも相當排日宣傳に努めてゐると云ふことである。殊に最近上海の義烈團員も多少潜入してゐると云ふことである。其處で金元鳳が屢々ドイツに行きたいと云ふことを漏すことから考へ合はして見て、今私の言つた朝鮮人俱樂部の中に、義烈團員の這入つてゐると云ふことも嘘ではないかと思ふのであります。

第七 在外鮮人の共産主義運動

其の次ぎに鮮外に於ける共産主義運動の狀況をお話しいたします。鮮外に於

ける朝鮮人の共産主義運動と謂ひましても、主としてロシアに於ける狀況と、其他は間島、滿洲等の朝鮮接壤地帯の狀況でありまして、それ以外には朝鮮人の共産主義運動と云ふものは殆どないと云つても宜からうと思ひます。ロシアには可成り多くの朝鮮人が歐露の方面にも居つたと云ふことは事實であります。それで勞農政府の方では朝鮮の獨立運動者を利用して朝鮮赤化の急先鋒たらしめんとして、専ら不逞鮮人の吸収と其の煽動に努めたものであります。現に大正九年四月にモスコフで鮮人等の第一回の會合が開かれた際に、鮮人勞働者の多數の團體の代表者が出席して、其他にレーニンとトロツキーと、日本社會主義者片山潜、米國社會主義者ドックス等を名譽會員に選んで極東に於ける革命運動を速成すると云ふことを可決したことがあるのであります。それで當時モスコフに於ける人民委員會が發表した處の宣傳文を見ても、勞農ロシアが當時朝鮮人と云ふものに非常に期待して居つたと云ふことが窺はれるのであります。

現に大正九年頃には盛んに武器の供給をロシアから受けた事實があるし、又李東輝は大正十年頃に勞農ロシアから共産主義宣傳の條件に於て六十萬圓を受領したと云ふ噂もあり、又此の金を受領したが爲めに李東輝の秘書金立が仲間の爲めに殺されたと云ふ事實もある。さう云ふ關係であるからして、朝鮮人が金を貰ふが爲めに頻りにモスコーに往復をしてゐるやうな狀況であります。又最近レーニングラードに於て、朝鮮人が雑誌『言葉と劍』と云ふものを發行してゐることを發見したのであります。是れは全部諺文を以て記載して居つて、其の内容は全部共産主義の宣傳並に軍事教練に關する事柄であります。斯の如く從來ロシアは革命以來鎖國主義を採つて、外國人の入露を非常に禁止して居つた狀況であるに拘らず、朝鮮人が比較的多數ロシアに這入つて、斯の如き運動に従事してゐると云ふことは兩者の關係が如何に緊密であるかと云ふことを物語つてゐるのであります。尙ほ聞く處に據るとモスコーに於ける第三インター

ナショナルの本部に於ても、東洋部長片山潜の下に相當の朝鮮人が居つて、朝鮮赤化に對する計畫を撓らしてゐると云ふことである。

次ぎは浦潮の狀況であります。浦潮では從來上海派の李東輝と、イルクツク派の韓明瑞とが互に軋轢をして居つたのであります。昨年の春高麗共産黨は第三國際共産黨から解散を命ぜられたけれども、尙ほ彼等は浦潮に於てロシア共産黨又は國際共産黨の孰れかに這入つて、國際共産黨本部の指揮の下に専ら朝鮮、上海方面に於ける共産主義の宣傳及び、共産黨の聯絡と云ふことに努力してゐると云ふやうな次第であります。尙上海の義烈團其他の各不逞團體なり、又は間島方面に於ける赤旗團等の各種の團體は、各々夫々モスコーの第三國際共産黨本部と聯絡をとつてゐると云ふことも事實であります。現に最近版つて來た者の報する處に據ると、上海間島に於ける不逞團の模様に就ては、國際共産黨本部に於て詳細に其の情報を知つてゐると云ふことでもあります。要す

るにロシア以外の國に於ける共產主義運動も、結局は國際共產黨本部の指揮に依つて動いてゐると云ふことが言ひ得るだらうと思ふのであります。唯だモスコの本部と、是等の地方団体との間の聯絡に就ては色々の機關を通して行くことと思はれるのであるけれども、比較的斯の如き緊密な聯絡を保つてゐると云ふことは事實のやうに思はれるのであります。

第八 在外發行諺文雜誌

最後に總督府の方で今日まで發見しました海外に於ける獨立運動又は共產主義運動に關する不穩雜誌の諺文を以て發行せられてゐるものを示せば左の通りであります。内容は各々特色はありますけれども、此處に一々説明することは出来ませんからして、單に表にして此處に示して置くだけに留めて置きたいと思ひます。

(完)

繼續不穩新聞雜誌

題	號	種別	發行地	題	號	種別	發行地
韓 美 報	諺文	全	支那	民 言	諺文	支那	支那
國 民 報	全	全	全	新 韓 年	全	全	全
太 平 洋 時 事 報	全	全	全	天 鼓 年	漢文	全	上海
新 韓 民 報	全	全	桑 港	東 亞 青 年	諺漢文	全	全
獨 立 新 報	全	全	上 海	新 生 活	全	全	全
新 大 韓 報	全	全	全	舌 社 (共 産)	諺文	全	全
大 韓 獨 立 報	全	全	全	大 韓 臨 時 政 府 公 報	諺漢文	全	全
震 壇 報	全	全	全	勞 働 申 報	全	全	全
自 由 報	全	全	露 領	東 亞 共 産 新 聞	全	全	全
赤 旗 報	全	全	全	赤 星	全	全	全
新 世 界 報	全	全	全	晨 光	漢文	全	天津
新 韓 公 報	全	支那	支那	愛 國 申 報	諺文	全	支那

導	衛	旬刊	ヒル	上海	革海	上少	同義	正義	正公	荒人	新	警	平	塾
報	導	報	事	論	命	年	友	報	野	物	鐘	平	鼓	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
全	北	吉	布	上	北	上	吉	南	燕	北	支	ホ	上	吉
京	林	哇	海	京	海	林	京	京	京	縣	那	ル	海	林
一	勞	農	大	馬	赤	旬刊	韓	韓	不	宣	中	四	炬	海
世	勤	民			色	新	諡	民	得	外	大	民	外	旬
報	報	計	震	劍	年	報	報	報	已	傳	報	報	火	報
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
敦	チ	寧	寧	寧	浦	北	黑	上	天	全	全	上	廣	北
化	タ	安	古	安	レ	滿	河	海	津			海	東	京

群	倍	學	仕	上	新	太	正	大	獨	自	獨	韓	三	
達	友	公	通	信	言	論	誌	報	同	報	由	報	早	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	(友)	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
松	露	支	浦	上	支	華	全	天	北	上	露	米	桑	
田	領	那	潮	海	那	府		津	京	海	領	國	港	
灣														
愛	極	文	曉	勞	共	新	青	華	勞	先	火	正	鬪	年
				勤			年	工			曜			賀
				運			會	醒	勤					新
世	光	化	鐘	動	產	光	報	報	者	驅	報	報	報	聞
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	上	浦	天	吉	上	北	露	全	チ	支	上	上	天	露
海	海	潮	津	林	海	京	領		タ	那	海	天	佛	領
			佛			大	香				又	津	界	灣

警鐘	光	勞	勞
報	報	報	報
諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文
寬甸	廣東	ハバロ	米國
工人	少年	露	歐米
の路	レニンノ部下	露文	露文
漢文	漢文	漢文	漢文
浦潮	モスコ	天津	桑港

不穩印刷物

朝鮮留學生會報	義烈團概文	韓國歷代小史正謬	革命宣言	虐命宣言	九社宣言	歐米委員部通信
諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文
シカゴ	上海	浙江	上海	上海	上海	布哇
興士團約法	ウエルチ博士聲討文	血	國民委員會公報	韓族勞働黨發起文	朝鮮人ニ對スル公開狀	神壇民史
諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文
上海	上海	北京	吉林	華府	上海	上海

高麗	史誌	柱石	魚洋	扶族	國恥	金相	國恥	海外	醒	聲	三	記	勞	露	韓
時報	通俗	言曆	言曆	言曆	言曆	言曆	言曆	言曆	言曆	言曆	言曆	言曆	言曆	言曆	言曆
諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文
上海	上海	北京	北京	寧古塔	上海	上海	上海	北京	北京	北京	吉林	華府	北京	北京	北京
朝鮮民衆	惡分子掃蕩宣言	韓國獨立黨組織促成	宣言	思想運動	水	露西亞共產黨政綱	共產黨ノ宣言	勞働組合ノ話	我等無產階級ノ進路	新シキ世トナレハ	共產黨ノ簡章、紀律	及政綱	カール、マルクス	レニ	高麗共產黨
諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文	諺漢文
天津	北京	輯安	輯安	輯安	知多	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

職工同盟	全	上海	諺漢文	眠レル韓族ハ奮起セヨ	諺漢文	浦潮
共產主義與無政府主義及議會派ノ比較	全	全	全	世界無產階級團結セヨ 海軍水兵諸君	邦文	全
直接行動	全	全	全	勞農露西亞ノ赤色艦隊	全	全
新軍令ト使命	全	浦潮	全	在魯革命軍隊沿革	諺漢文	全
我們的運動	漢文	上海	全	階級闘争場裡ノ青年	全	全
共產讀本 第一卷	諺漢文	全	全	朝鮮ノ日本兵士ニ告ク	邦文	全
共產主義的五月一日	全	全	全	告遠東俄羅斯革工	漢文	全
土地問題	全	全	全	海坊主	邦文	全
共產黨ノ手引	全	モスコ	全	日本青年及婦女子勞働者ニ與フ	全	全
兵卒ノ覺悟	邦文	浦潮				
李十克内西記念	諺漢文	廣州				

大正十四年十二月一日印刷
大正十四年十二月十日發行

不許
複製

發行所

福岡市天神町一番地

著作兼發行者

財團警察協會福岡支部

代表者 井 尾 悅 三

福岡市春吉新橋通一六五七番地

印刷者 永 池 佐 造

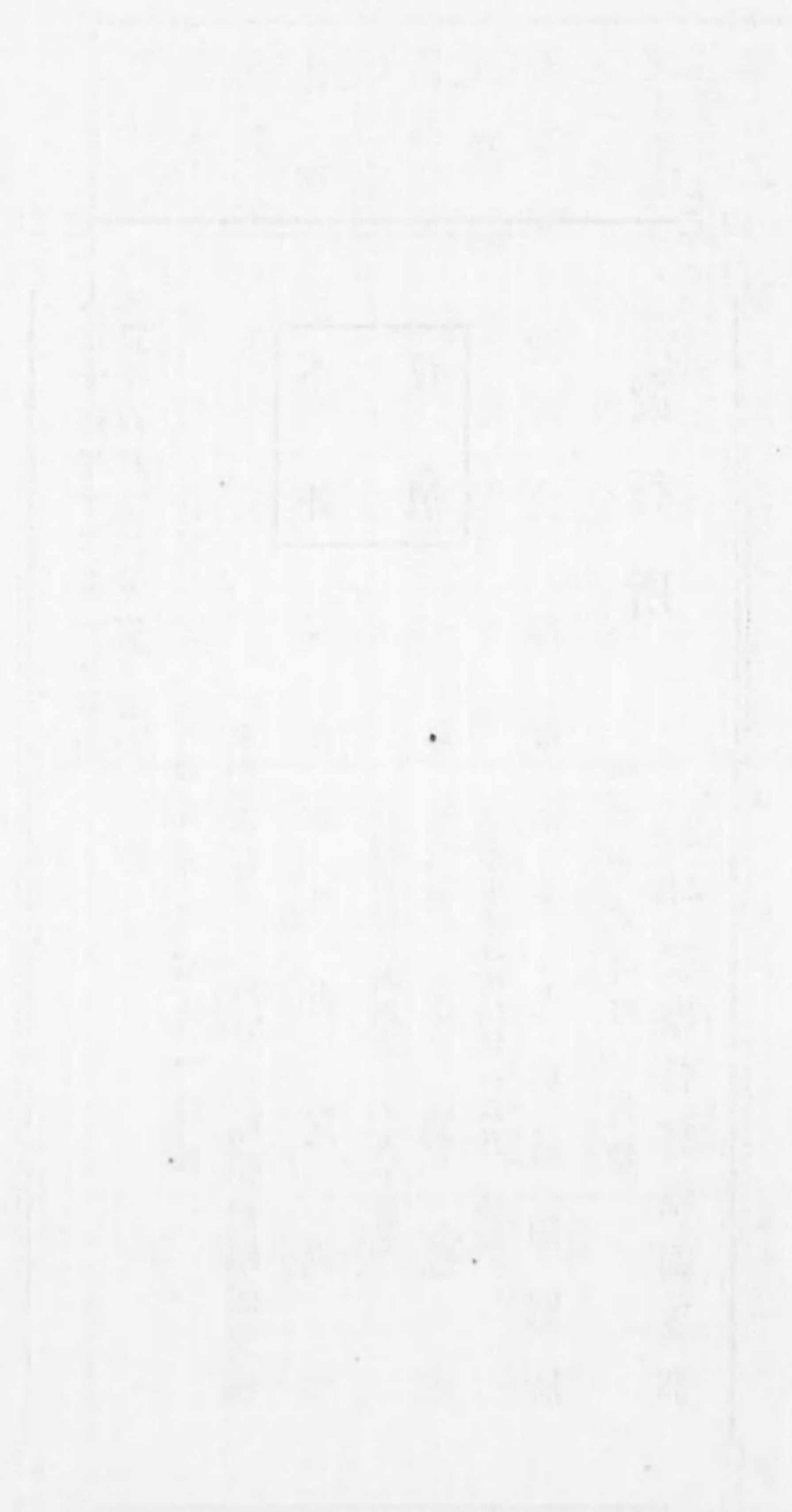
福岡市春吉新橋通一六五七番地

印刷所 九興社印刷所

福岡市天神町一番地

財團警察協會福岡支部

297
314



終

